



助産師教育研修研究 センター事業報告

2019 年度

公益社団法人 全国助産師教育協議会
助産師教育研修研究センター



目次

1.	はじめに	1
2.	助産師教育研修研究センター	
1)	助産師教育研修研究センターの目的	2
2)	助産師教育研修研究センター事業内容	2
I	助産師教育ファーストステージ研修	
1	2019年度 助産師教育ファーストステージ研修の概要	3
1)	助産師教育ファーストステージ研修の目的	3
2)	受講生	3
3)	開講式	4
4)	開講科目	5
5)	年間スケジュール	6
6)	担当講師	7～8
7)	助産師教育実習	9
8)	公開講座	10～11
9)	これまでの都道府県別受講生数と助産師教育実習の受け入れ先（2013年度から2019年度）	12～13
II	助産師教育セカンドステージ研修	
1	2019年度 助産師教育セカンドステージ研修の概要	14
1)	助産師教育セカンドステージ研修の目的	14
2)	2019年度 助産師教育セカンドステージ研修 募集要項	14～17
3)	開講科目と受講生数	17
4)	2019年度セカンドステージ研修「助産師教育課程概論」研修日程	18
5)	ファシリテーター	19
2	2019年度 助産師教育セカンドステージ研修の評価	20
1)	助産師教育セカンドステージ研修 助産師教育課程概論終了時アンケート	20～23
III	特定分野（助産）における保健師助産師看護師実習指導者講習会	
1	2019年度 特定分野（助産）における保健師助産師看護師実習指導者講習会の概要	24
1)	特定分野（助産）における保健師助産師看護師実習指導者の目的	24
2)	実施地区および会場	24
3)	受講生の状況	24
4)	講習科目と担当講師	25
5)	助産学実習指導の実際Ⅱの演習内容	26
6)	演習（助産学実習指導の実際Ⅱ）の学習結果	27～48
2	2019年度 特定分野（助産）における保健師助産師看護師実習指導者講習会評価	49～53
IV	全国助産師教育協議会e-learning研修	
1	2019年度 e-learning研修の配信開始	54
1)	e-learning研修での教育の成果	54
2)	e-learning研修セットの内容	54
2	全国助産師教育協議会e-learning研修セット受講者の評価	55～60
V	センター事業におけるCLoCMIP®レベルⅢ認証申請のための研修一覧	61～62

1. はじめに

2019年度の教育研修研究センター研修事業の特徴は、従来からの研修事業であるファーストステージ研修、特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会、セカンドステージ研修の他に、新たにファーストステージ研修でe-learningによる研修を開始したことである。e-learningの授業科目は5科目、8コマである。詳細は54P～を参照されたい。

ファーストステージ研修は、一昨年見直し洗練した7科目、8単位(240時間)で教育を開始し、受講生は全科目生11名、科目履修生15名であり、公開講座聴講生2名である。受講生は多様な視点から問題意識をもってディスカッションを活発に行い、相互研鑽が深められていた。

2018年度から新たに開始したセカンドステージ研修は、助産師教育全般を理解し助産師教育のリーダーとして活動できる人材の育成を目指し、受講対象を准教授、教務主任等教育責任者・実習調整者とし、定員12名を公募した。2019年6月から「助産師教育課程概論」を開講し2019年9月で本科目は終了し、次いで2019年11月から2020年3月終了予定で「助産師教育運営組織論」を開講した。受講生は定員12名で12名の希望があり、「助産師教育運営組織論」の公開講座では18名の聴講生が参集し、学習ニーズの高いことがうかがえた。

特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会は、受講生56名(東京会場22名、大阪会場34名)で教育が行われ、受講生の平均年齢は38.6歳と、臨床指導で活動している方々である。学びでは、指導の在り方、学生への関わり方、自らの指導者観・学習者観・教材観の形成、実習の受け入れ体制、臨床と教育の連携など助産学実習指導演習を通して本年度も幅広く学習を深めていた。

上記、各教育研修は順調に進められていたが、今般の新型コロナウイルス感染症により、セカンドステージ研修「助産師教育運営組織論」2020年3月の研修と、ファーストステージ研修2020年3月開催の「助産師教育評価」の教育が行われない実情である。ファーストステージ研修2019年度生の修了式も行われていない。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しはつかず、第2波の危険性も論じられているが、これらの未履修科目は2020年後期にZoomでのオンライン授業に取り組む予定である。

時代の趨勢に合わせて、教育研修研究センターでもオンラインによる教育の活性化をする必要性に駆られており、2020年度の研修は、科目担当講師の協力を得ながらZoomでのオンライン教育を主体に運営する予定である。また、e-learningによる研修の授業科目を増加して地元で研修できるシステムの強化を図ってゆきたい。

京都大学 山極寿一総長(朝日新聞5/4)が「人々のつながりを保つために情報通信技術の賢い運用が欠かせない。人間の心身は直接触れ合わないと熱を保てないから適切に集まる機会を作る。共感や感動を分かち合える環境を整えることが必要だ。」と述べられているように、集合教育の重要性も認識して教育方法を組み合わせていきたい。

本年度も各教育事業に携わって下さいました委員各位、ご指導下さいました講師の先生方、教育機関会員の皆様方に衷心より厚く御礼申し上げます。

2020年6月 助産師教育研修研究センター長 平澤美恵子

2. 助産師教育研修研究センター

1) 助産師教育研修研究センターの目的

公益社団法人全国助産師教育協議会 助産師教育研修研究センター(以下、本センター)は、助産師教育に携わる者が、高度な助産実践の教育力を修得・維持し、助産師教育の質の向上に生涯学習の場として資することを目的とする。

2) 助産師教育研修研究センター事業内容

① 助産師教育に関わる教員を対象とした研修

(教育学に関する内容、助産師教育課程、助産師教育の基礎に関する内容、助産学(論)、助産師教育論・教育制度、助産師教育方法及び評価、学校運営等)

② 助産師教育に関わる臨床指導者を対象とした研修

(教育学に関する内容、助産師教育課程、助産師教育の基礎に関する内容、助産学(論)、助産師教育論・教育制度、助産師教育方法及び評価、臨床指導論、指導技術のスキルアップ等)

③ 研究機関に属さない助産教員を対象に、助産研究能力の向上を目指した支援

I 助産師教育ファーストステージ研修

1 2019 年度 助産師教育ファーストステージ研修の概要

1) 助産師教育ファーストステージ研修の目的

助産師教育に携わる教員や臨地実習指導者が、助産実践力を基盤に助産観と教育観に裏付けられた教育力を養い、ひいては助産師教育全体の質の向上を図ることを目的とする。

2) 受講生

2019 年度「助産師教育ファーストステージ研修」は、大学、短期大学、専門学校、臨地で助産師教育に携わっている者（全科目履修生 11 名、科目履修生 15 名）が受講した（表 1）。

表 1 受講生の属性 (名)

所属別		全科目履修生	科目履修生
教育課程	大学院	1	2
	大学・短期大学の専攻科	1	6
	大学	5	8
	専門学校	1	4
臨床指導者		2	0
その他		1	
計		11	15

3) 開講式

次のとおり、2019 年度助産師教育ファーストステージ研修開講式を挙行了した。

開催日時 2019 年 6 月 21 日（金） 開講式：午前 10 時～11 時 00 分

会 場 とわ助産院 研修室

出席者

来 賓

日本看護協会 常任理事 井本 寛子氏

日本助産師会 副会長 安達 久美子氏

全国助産師教育協議会

副 会 長 渡邊 典子

センター長 平澤美恵子



4) 開講科目

7 科目（8 単位 240 時間）を開講した（表 2）。

表 2 2019 年度 開講科目

教育内容	授業科目	時間数	単位数
助産論	助産論	15	1
	助産論演習	30	1
助産師教育方法	助産師教育方法論	60	2
	助産師教育方法論演習	30	1
助産師教育課程	助産師教育課程	30	1
助産師教育評価	助産師教育評価	30	1
助産師教育実習	助産師教育実習	45	1
計		240	8

5) 年間スケジュール

助産師教育ファーストステージ研修

2019年

ス ケ ジ ュ ー ル

	月 日	曜 日	受講 場所	1時限 (9:30～11:00)	2時限 (11:10～12:40)	3時限 (13:30～15:00)	4時限 (15:10～16:40)	5時限 (16:50～18:20)
				科目名(講師)	科目名(講師)	科目名(講師)	科目名(講師)	科目名(講師)
助産論	6/21	金	とわ助産院	開講式. OT (10:00～11:00)	ガイダンス(平澤) (11:00～12:40)	助産論 片岡弥恵子	助産論 片岡弥恵子	助産論 平澤美恵子
	6/22	土		助産論 平澤美恵子	助産論 平澤美恵子	助産論 村上睦子	助産論 大石時子	助産師教育方法論 島田智織
助産論演習	7/12	金	とわ助産院	助産論演習 村上睦子	助産論演習 村上睦子	助産論演習 村上睦子	助産論演習 村上睦子	助産論演習 厚生労働省 岡本麻美子
	7/13	土			助産論演習 安達久美子	助産論演習 安達久美子	助産論演習 安達久美子	助産論演習 安達久美子
	7/14	日		助産論演習 大石時子	助産論演習 大石時子	助産論演習 大石時子	助産論演習 大石時子	助産論演習
助産師教育方法論	7/26	金	とわ助産院	助産師教育方法論	助産師教育方法論 高橋弘子	助産師教育方法論 高橋弘子	助産師教育方法論 高橋弘子	助産師教育方法論 文部科学省 杉田由加里
	7/27	土		助産師教育方法論	助産師教育方法論 村上 明美	助産師教育方法論 伊藤美栄	助産師教育方法論 伊藤美栄	助産師教育方法論 伊藤美栄
	7/28	日		助産師教育方法論 伊藤美栄	助産師教育方法論 伊藤美栄	助産師教育方法論 島田智織	助産師教育方法論 島田智織	助産師教育方法論 島田智織
	8/9	金	とわ助産院	助産師教育方法論	助産師教育方法論 村上 明美	助産師教育方法論 村上 明美	助産師教育方法論 村上 明美	助産師教育方法論 村上 明美
	8/10	土		助産師教育方法論 白石 三恵	助産師教育方法論 白石 三恵	助産師教育方法論 白石 三恵	助産師教育方法論 白石 三恵	助産師教育方法論 白石 三恵
	8/11	日		助産師教育方法論 藤井 ひろみ	助産師教育方法論 藤井 ひろみ	助産師教育方法論 藤井 ひろみ	助産師教育方法論 藤井 ひろみ	助産師教育方法論
助産師教育方法演習	10/4	金	とわ助産院	助産師教育方法演習 藤井 ひろみ	助産師教育方法演習 藤井 ひろみ	助産師教育方法演習 村上 明美	助産師教育方法演習 村上 明美	助産師教育方法演習 村上 明美
	10/5	土		助産師教育方法演習 白石 三恵	助産師教育方法演習 白石 三恵	助産師教育方法演習 村上(明)・藤井(ひ)・白石	助産師教育方法演習 村上(明)・藤井(ひ)・白石	助産師教育方法演習 村上(明)・藤井(ひ)・白石
	10/6	日		助産師教育方法演習 村上(明)・藤井(ひ)・白石	助産師教育方法演習 村上(明)・藤井(ひ)・白石	助産師教育方法演習 村上(明)・藤井(ひ)・白石	助産師教育方法演習 村上(明)・藤井(ひ)・白石	助産師教育方法演習 村上(明)・藤井(ひ)・白石
助産師教育課程	2020年 1/24	金	とわ助産院	助産師教育課程 佐々木 幾美	助産師教育課程 佐々木 幾美	助産師教育課程 日本助産師会 安達久美子		
	1/25	土		助産師教育課程 北村 聖	助産師教育課程演習 浅見恵梨子・藤井宏子	助産師教育課程演習 浅見恵梨子・藤井宏子	助産師教育課程演習 浅見恵梨子・藤井宏子	助産師教育課程演習 浅見恵梨子・藤井宏子
	1/26	日		助産師教育課程演習 恵美須文枝・藤井宏子	助産師教育課程演習 恵美須文枝・藤井宏子	助産師教育評価演習 米山 万里枝	助産師教育課程演習 恵美須文枝・藤井宏子	助産師教育課程演習 恵美須文枝・藤井宏子
教育課程評価	3/7	土	とわ助産院	助産師教育評価 梶田 毅一	助産師教育評価 梶田 毅一	助産師教育評価 近藤 潤子	助産師教育評価 近藤 潤子	助産師教育評価 近藤 潤子
	3/8	日		助産師教育評価 倉本 孝子	助産師教育課程 日本看護協会 井本寛子	助産師教育評価演習 米山万里枝・渡邊典子 山崎圭子	助産師教育評価演習 米山万里枝・渡邊典子 山崎圭子	助産師教育評価演習 米山万里枝・渡邊典子 山崎圭子
	3/9	月		助産師教育評価演習 米山万里枝・渡邊典子 山崎圭子	助産師教育評価演習 米山万里枝・渡邊典子 山崎圭子	助産師教育評価演習 米山万里枝・渡邊典子 山崎圭子	ファーストステージ研修まとめ	修了式

6) 担当講師

全国の会員校・非会員校の教員・専門分野の方々に担当頂いた（表3）。

表3 2019年度 開講科目および担当講師

科目	氏名	所属
助産論（1単位 15時間） 助産論演習（1単位 30時間）	平澤 美恵子	助産師教育研修研究センター
	片岡 弥恵子	聖路加国際大学大学院
	安達 久美子	首都大学東京
	村上 睦子	元母子保健研修センター助産師学校
	岡本 麻美子	厚生労働省医政局看護課
	杉田 由加里	文部科学省高等教育局医学教育課
	大石 時子	高崎健康福祉大学大学院
	郷原 寛子	関西国際大学
助産師教育課程(1単位 30時間)	佐々木 幾美	日本赤十字看護大学大学院
	北村 聖	地域医療復興協会
	井本 寛子	日本看護協会
	安達 久美子	日本助産師会
	恵美須 文枝	亀田医療大学大学院
	浅見 恵梨子	甲南女子大学
	藤井 宏子	県立広島大学
助産師教育法論(2単位 60時間) 助産師教育方法演習(1単位 30時間)	高橋 弘子	元北海道科学大学
	伊藤 美栄	国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校
	島田 智織	茨城県立医療大学
	村上 明美	神奈川県立保健福祉大学
	白石 三恵	大阪大学大学院
助産師教育評価(1単位 30時間)	近藤 潤子	天使大学大学院
	梶田 叡一	桃山学院教育大学

	倉本 孝子	社会医療法人愛仁会本部看護部
	米山万里枝	東京医療保健大学
	山崎 圭子	宮崎大学大学院
	渡邊 典子	新潟青陵大学
助産師教育実習（1 単位 45 時間）	高田 昌代	神戸市看護大学大学院
	近藤 良子	日本赤十字社助産師学校
	井村 真澄	日本赤十字看護大学大学院
	屋敷 久美	聖バルナバ助産師学院
	高橋 順子	四国大学
	安達 久美子	首都大学東京
	森 聖美	中林病院助産師学院
	中尾 優子	鹿児島大学
	田中 佳代	久留米大学大学院
	島田 智織	茨城県立医療大学

7) 助産師教育実習

(1) 科目目標

科目目標として「臨地で学習者が助産過程を展開することを支援する方法を理解し、実施できる」「助産学のさまざまな教授方法を展開できる」「学習者の到達度を適切に評価する方法を理解できる」とした。

到達目標として「臨地での学習者が助産過程を展開することを支援する方法を理解できる」「臨地での教員の役割が理解できる」「臨地での学習者がおこなった助産過程を評価する方法が理解できる」「講義目標・内容・教材・評価方法を設定し、目標に沿った講義がおこなえる」「自らがおこなった講義内容を客観的に評価する方法が理解できる」「学習困難事例に対する対応と実習支援策を考えることができる」の6つを設定した。

(2) 助産師教育実習受入先一覧

次の全国助産師教育協議会会員校から実習の了承が得られ、研修生 10 名が全教育実習を展開した(表 4)。

表 4 2019 年度 助産師教育実習先一覧

実 習 教 育 機 関
神戸市看護大学大学院
首都大学東京
四国大学
聖バルナバ助産師学院
鹿児島大学
日本赤十字社助産師学校
日本赤十字看護大学大学院
中林病院助産師学院
久留米大学大学院
茨城県立医療大学

8) 公開講座

全国助産師教育協議会ファーストステージ研修 公開講座

2019年度7月、8月の研修では、助産師教育に関する行政の視点からお話しいただく内容と、教育方法論および技術教育に関するOSCEを公開講座といたしました。日頃の教育を広い視野から考え直してみませんか？皆様のご参加をお待ちしております。

会場 神奈川県助産師会立 とわ助産院

横浜市鶴見区鶴見中央区1-10-20 JR鶴見駅東口より徒歩2分 京急鶴見駅より徒歩4分

各公開講座はアドバンス助産師更新要件として【 】内に示されている区分と時間が認められます

日程	テーマ〔CLoCMiPの更新要件〕	講師
7月12日（金） 16:50～18:20（1コマ）	看護行政の最近の動向 〔管理：1.5時間〕	厚生労働省 岡本麻美子 先生
7月26日（金） 11:10～16:40（3コマ）	助産師教育における教授・学習活動の成立 （学習理論を含む） 助産師教育における教材と教材研究 〔教育：9.0時間〕 助産師教育の現状と課題	元 北海道科学大学 高橋 弘子 先生
高橋弘子先生の講義はelearning3コマを事前学習後、7/26の講義にご参加いただきます		
7月26日（金） 16:50～18:20（1コマ）	行政が助産師に期待する役割と機能 〔管理：1.5時間〕	文部科学省 杉田由加里先生
7月27日（土） 13:30～18:20（3コマ）	OSCEの理論と実際 〔教育：7.5時間〕	京都医療センター附属 京都看護助産学校 伊藤 美栄 先生
7月28日（日） 9:30～12:40（2コマ）		

受講料：2,000 円（1コマ）
 ※高橋弘子先生の講義は6コマ分14,000 円（12,000 円+elearning視聴に関わる事務手続き料2,000 円）
 伊藤美栄先生は2日間5コマ10,000 円の受講料になります。

お申込み先

全国助産師教育協議会HP「ファーストステージ研修」のバナーよりお進みください
<https://www.zenjomid.org/>

お申込み締切日 7月10日（水）

お問い合わせ 全国助産師教育協議会 東京都文京区音羽1-19-18 東京都助産師会館2階
 ☎ 03-(3944) 2911 ☎ zenjomid.1965@caroan.no.jp

2019年度 全国助産師教育協議会 ファーストステージ研修

公開講座

2020年1月・3月の公開講座は、5名の先生方にご協力いただき、助産師教育課程と助産師教育評価に関する公開講座を企画いたしました。現在の助産師教育はもちろん、これからの助産師教育を考えてみませんか？

本講座は教員対象のアドバンス助産師の更新要件である専門的自律能力「教育及び臨地実習に関する研修（以下、教育）」「助産管理に関する研修（以下、管理）」に該当します。

日程	テーマ〔アドバンス助産師 更新要件〕	講師
1月24日（金） 13：30～15：00	職能団体における教育に関する役割と連携 （日本助産師会）〔管理〕	日本助産師会 副会長 安達 久美子先生
1月25日（土） 9：30～11：00	医学教育の現状と課題〔教育〕	公益社団法人 地域医療振興協会 理事 北村 聖先生
3月7日（土） 9：30～12：40 （2コマ）	教育評価の基本的考え方〔教育〕	桃山学院教育大学 学長 梶田 毅一先生
3月7日（土） 13：30～18：20 （3コマ）	助産師の専門性を高める教育・評価の在り方 〔教育〕	天使大学大学院 客員教授 近藤 潤子先生
3月8日（日） 11：10～12：40	職能団体における教育に関する役割と連携 （日本看護協会）〔管理〕	日本看護協会 理事 井本 寛子先生

受講料 1コマ 2,000 円 修了証発行手数料 1,000円

※ 近藤先生の講義は3コマ6,000円、梶田先生の講義は2コマ4,000円でのお申込みとなります。
※ 修了証発行手数料はコマ数に関係なく1テーマ1,000円となります。

申し込み 全国助産師教育協議会ホームページ <https://www.zenjomid.org/>
「ファーストステージ研修」のバナーよりお進みください

会場定員 10 名 お申込み締切り日 2020年 1 月 20 日（月）

場所

神奈川県助産師会立 とわ助産院

横浜市鶴見区鶴見中央1-10-20 JR鶴見駅東口より徒歩2分 京急鶴見駅より徒歩4分



お問い合わせ 全国助産師教育協議会
東京都文京区音羽1-19-18 東京都助産師会館2階
☎ 03 (3944) 2911（火・木・金 在室）
✉ zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

9) これまでの都道府県別受講生数と助産師教育実習受け入れ先(2013 年度～2019 年度)

(1) 都道府県別 全科目履修生及び科目履修生

表 5 2013 年度から 2019 年度の都道府県別受講生一覧

(名)

	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
全科目履修生							
北海道			1				
岩手		1					
宮城	1						
新潟	1				1	1	
栃木	1						
群馬		1					
茨城						1	
埼玉	1	1	1				
東京	2	1			1	3	3
神奈川		1				1	1
石川	1	1					
福井							1
滋賀		1					
兵庫	2	1	2	3			
大阪		1	5	4		2	2
徳島	1						
広島	1	1	1	2	1	1	
福岡				1			
愛媛							1
長崎		1					
沖縄			1				3
科目履修生							
北海道						2	1
東京		3			1		5
神奈川						1	
埼玉					2	1	1
千葉		1					1
愛知	2						1
石川	1				1		
兵庫	1				1		1
大阪			2	1			1
鳥取					1		
島根					1		
広島				1		1	
岡山							1
山口							1
福岡					2		
長崎			1	1		1	
熊本					1	3	
大分		2				1	
宮崎							2
合計	15	17	14	13	13	19	26

(2) 公開講座の参加人数

表 6 公開講座参加人数 (2013 年度～2019 年度) (名)

2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
35	6	18	95	88	115	2

(3) 助産師教育実習受け入れ先

表 7 助産師教育実習受け入れ先 (2013 年度～2019 年度) (名)

実習施設	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
天使大学大学院	1	1					
仙台医療センター附属仙台看護助産学校	1		1				
東京医療保健大学 (専攻科)	2	1					
聖路加看護大学大学院	1						
日本赤十字社助産師学校	2	1				1	1
神戸市看護大学 (専攻科)	2	3	1				
神戸市看護大学大学院				3	1	1	1
日本赤十字看護大学大学院		2	1				1
神奈川県立保健福祉大学 (学部)		1			1		
桐生大学 (別科)		1					
千里金蘭大学 (学部)		1	1	2			
徳島大学大学院		1	1				
長崎大学大学院		1					
金沢大学大学院			1				
聖バルナバ助産師学院			2	1			1
宮崎大学大学院			1				
新潟青陵大学					1	1	
公立大学法人大阪府立大学				1			
母子保健研修センター助産師学校						1	
奈良県立医科大学大学院						1	
畿央大学						1	
首都大学東京						1	1
中林病院助産師学院						1	1
四国大学							1
久留米大学大学院							1
鹿児島大学							1
茨城県立医療大学							1

Ⅱ 助産師教育セカンドステージ研修

1 2019 年度 助産師教育セカンドステージ研修の概要

1) 助産師教育セカンドステージ研修の目的

セカンドステージ研修は助産師教育にリーダーシップを発揮するために、助産観と教育観に裏付けられた教育力をさらに発展させ、助産師教育全体の質の向上を図ることを目的とする。

2) 2019 年度 助産師教育セカンドステージ研修 募集要項

「助産師教育課程概論」募集要項

1. 「助産師教育課程概論」概要

目標：将来の助産師育成を見据えた発展的なカリキュラム開発ができる。

内容：助産師教育に求められるディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーや教育課程の意義など編成原理を踏まえ、助産師教育のカリキュラムや教育課程を開発する際の考え方とそのプロセスを学ぶ。

方法：講義と演習。研修生自身によるプレゼンテーション、グループ・個人ワークを含む。

2. 募集人員

12 名（予定人数に達し次第、締め切ります）

3. 出願資格

助産師教育に関わる、専修／専門学校及び、短期大学専攻科、大学、大学専攻科・別科、大学院の教員（教務主任又はそれに準ずる者、准教授、講師、実習調整担当者）、ファーストステージ研修修了者、助産師教育を 5 年以上経験した者などを対象とする。

4. 受講料

会員校・個人会員 30,000 円

非会員 50,000 円

5. 単位（時間数）

1 科目 2 単位（30 時間）

修得した単位は今後のセカンドステージ研修の既修得単位として認められます。

6. 開講期間

2019 年 6 月 1 日（土）、9 月 28 日（土）～29 日（日）

※ 基本的な開講時間は、1 日 5 コマ（9:00～17:00）です。

※ 初回以降、各自の課題に沿ってグループ及び個別ワークが必要となる可能性があります。

※ 原則として、各科目の初日に出席可能であること、3 日間のすべてに出席できる方の参加を優先いたします。

7. 開講予定

月 日	内 容
2019 年 6 月 1 日（土）	助産師教育における課題の明確化と共有
2019 年 9 月 28 日（土）	課題に対するアクションプランへのアプローチ
2019 年 9 月 29 日（日）	将来を見据えた助産師教育課程の展開上の課題と解決策
合計	30 時間（2 単位）

ファシリテーター：恵美須文枝 話題提供者：全国助産師教育協議会将来構想委員

※ 初回までにあなたが考える助産師教育の課題に関するプレゼンテーション内容として PPT(10 枚以内)を準備して臨んでください。6 月 1 日(土)にお一人 15 分以内で発表していただきます。

8. 修得科目証明書の交付

修了者には、公益社団法人全国助産師教育協議会会長名で修得科目証明書を交付します。

9. 開催会場

神奈川県助産師会立 とわ助産院 研修室

住所：〒230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央 1-10-20

TEL：045-834-7556

アクセス：JR 鶴見駅東口より徒歩 2 分

京浜急行線 京急鶴見駅より徒歩 3 分

10. 受講申し込み手続き

1) 期間：2019 年 4 月 1 日(月)～5 月 21 日(火) 必着※定員になり次第、締め切ります。

2) 方法：必ずホームページから web 申し込みをし、下記 12. に示す書類を、書留速達により以下の住所に郵送して下さい。

3) 提出先：〒112-0013 東京都文京区音羽 1-19-18 東京都助産師会館 2 階

公益社団法人全国助産師教育協議会事務局

TEL：03-3944-2911 (火・木 事務局在室)

11. 受講申し込み書類(ホームページからダウンロード可)

1) 個人調書(様式 2)

12. 受講決定後の連絡

受講が決定しましたら、申し込み書類到着後 2 週間以内に E-mail で通知します。

13. その他

宿泊場所及び昼食は、各自で用意してください。

「助産師教育運営組織論」募集要項

1. 「助産師教育運営組織論」概要

目標：今後の教育機関のあるべき姿を考えた組織改革に必要な能力を身につける。

内容：助産師を取り巻く社会の動向から今後の助産師教育の経営や運営上必要な視点を模索し、革新的な経営戦略について考察する。

方法：講義と演習。研修生自身によるプレゼンテーション、グループ・個人ワークを含む。

2. 募集人員

12 名（予定人数に達し次第、締め切ります）

3. 出願資格

助産師教育に関わる、専修／専門学校及び、短期大学専攻科、大学、大学専攻科・別科、大学院の教員（教務主任又はそれに準ずる者、准教授、講師、実習調整担当者）、ファーストステージ研修修了者、助産師教育を 5 年以上経験した者などを対象とする。

4. 受講料

会員校・個人会員 30,000 円

非会員 50,000 円

5. 単位（時間数）

1 科目 2 単位（30 時間）

修得した単位は今後のセカンドステージ研修の既修得単位として認められます。

6. 開講期間

2019 年 11 月 4 日（月・祝）、2020 年 3 月 14 日（土）～15 日（日）

※ 基本的な開講時間は、1 日 5 コマ（9:00～17:00）です。

（会場により開講時間の変更もあります）。

※ 初回以降、各自の課題に沿ってグループ及び個別ワークが必要となる可能性があります。

※ 原則として、各科目の初日に出席可能であること、3 日間のすべてに出席できる方の参加を優先いたします。

7. 開講予定

月 日	内 容
2019 年 11 月 4 日（月・祝）	・ 助産師教育の経営および運営における課題の明確化と共有 ・ 課題に対する実現可能なアクションプランの検討
2020 年 3 月 14 日（土）	・ 課題に対するアクションプランへのアプローチの共有
2020 年 3 月 15 日（日）	・ 組織改革に向けた各課程の展開上の課題と解決策の検討

ファシリテーター：倉本孝子・鈴木千秋 話題提供者：日本看護協会 会長 福井トシ子

※初回までにあなたの組織における教育運営上の課題をプレゼンテーション内容として PPT(10 枚以内)を準備して臨んでください。11 月 4 日（月・祝）にお一人 15 分以内で発表していただきます。

※上記プレゼンテーション PPT 資料は 10 月 28 日（月）までに全国助産師教育協議会事務局 zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp に送付してください。

8. 修得科目証明書の交付

修了者には、公益社団法人全国助産師教育協議会会長名で修得科目証明書を交付します。

9. 開催会場

11 月 4 日 東京都助産師会館 5 階講堂

3月14、15日 母子保健研修センター助産師学校3階教室
住所：〒112-0013 東京都文京区音羽1-19-18
アクセス：有楽町線「護国寺駅」6番出口より徒歩5分

10. 受講申し込み手続き

- 1) 期 間：2019年9月2日（月）～10月16日（水）必着 定員になり次第、締め切ります。
- 2) 方 法：必ずホームページからweb申し込みをし、下記12.に示す書類を、書留により以下の住所に郵送して下さい。
- 3) 提出先：〒112-0013 東京都文京区音羽1-19-18 東京都助産師会館2階
公益社団法人全国助産師教育協議会事務局
TEL：03-3944-2911（火・木 事務局在室）

11. 受講申し込み書類（ホームページからダウンロード可）

- 1) 個人調書（様式2）
2018年度および2019年度の助産師教育課程概論を受講した方は不要です。

12. 受講決定後の連絡

受講が決定しましたら、申し込み書類到着後2週間以内にE-mailで通知します。

13. その他

宿泊場所及び昼食は、各自で用意してください。

とわ助産院：JR鶴見駅東口より徒歩2分 京浜急行線 京急鶴見駅より徒歩3分

3) 開講科目と受講生数

2019年度「助産師教育セカンドステージ研修」は、大学、短期大学、専門学校、臨地で助産師教育に携わっている者（研修生20名）が受講した。

（名）

所属別		助産師教育課程概論： 30時間 2単位	助産師教育運営組織論： 30時間 2単位
教 育 課 程	大学院		2
	大学・短期大学の専攻科	1	3
	大学	3	4
	専修学校	4	3
臨床指導者			
その他			
計		8	12

4) 2019 年度 セカンドステージ研修「助産師教育課程概論」研修日程

1. 参加動機に基づくテーマごとに1グループ3人で、テーマ別に達成目標に向けた討議を行った。
2. 上記1に加えて、このほど厚労省から提案された「望ましい助産師教育におけるコアカリキュラム案」について、本案の実施に向けた現場教育の立場から討議を行った。

月日	時 間	活 動 内 容	備 考
6/1 (土)	9：30～9：50	・研修オリエンテーション（20分）	発表 10 分、質疑応答 10 分
	9：50～10：50	・自己紹介プレゼン・質疑応答①②③	
	11：00～12：00	・自己紹介プレゼン・質疑応答④⑤⑥	
	昼 食		
	13：00～14：30	・自己紹介プレゼン・質疑応答⑦⑧⑨ ・グループピング調整	
	14：40～16：10	・講義：助産師教育における現状と課題 全助協 将来構想委員会の検討課題について	委員長 村上明美先生
	16：10～17：00	・グループ毎のゴール確認と今後の予定 検討	
9/28 (土)	9：10～10：30	・講義：「助産師教育カリキュラム作成 のプロセス」	担当ファシリテーター 恵美須文枝
	10：40～12：20	・グループ討議	課題討議
	昼 食		
	13：00～14：30	・グループ討議	同上
	14：40～16：10	・中間報告・発表・討議 グループ① ②③	1 グループ 20 分 （発表・討議各 10 分）
9/29 (日)	9：10～10：40	・グループ討議「望ましい助産師教育に おけるコアカリキュラム案」について	・改定カリキュラム案の実 施に向けて検討
	10：50～12：20	・グループ討議	
	昼 食		
	13：00～14：30	・グループ討議	・テーマは各グループで決 定
	14：40～16：20 16：20～17：00	・グループ別報告①②③ ・修了証書授与・他	1 グループ 30 分 （発表・討議）

<研修所感>

今年度は、厚労省の看護教育検討会の答申に基づき、2022年度から、従来の28単位の助産師教育カリキュラムが31単位に改訂され、教育内容や目標達成レベルが明確化されることとなった。このことは受講生にとっての身近な課題であることから、提案された「望ましい助産師教育におけるコアカリキュラム案」の内容についての討議を今回研修に急遽追加し、活発な議論がなされた。検討結果は、本会の将来構想委員会に今回の研修成果の一部として提出した。

(文責 担当ファシリテーター 恵美須文枝)

5) ファシリテーター

【助産師教育課程概論】

話題提供者：全国助産師教育協議会 将来構想委員会委員長 村上 明美

ファシリテーター：亀田医療大学大学院 恵美須 文枝

【助産師教育運営組織論】

話題提供者：日本看護協会 会長 福井 トシ子

ファシリテーター：社会福祉法人愛仁会本部看護部 倉本孝子

医療法人社団スズキ病院 スズキ記念病院 鈴木千秋

甲南女子大学 浅見恵梨子

新潟青陵大学 渡邊典子

2 2019 年度 助産師教育セカンドステージ研修の評価

1) 助産師教育セカンドステージ研修 助産師教育課程概論終了時アンケート（修了生 8 人中 8 人回答）

1. 研修の満足度について

満足：7 名 . ほぼ満足：1 名 . あまり満足していない：0 不満：0

- ・自己の課題が明確になり、自分なりの解決策を考えられた。望ましい助産師教育におけるコアカリ（案）を検討して、内容を理解できた。また自身の教育（カリキュラム）に活用するにはどうすればよいのか考えられた。
- ・望ましい助産師教育コアカリキュラムについてこんなにじっくり内容を吟味したことがなかった。皆で意見交換しながら考える事で助産師教育のあり方についてこれまでより少し理解する事ができた。
- ・助産師教育のコアカリキュラムを精査し、所属機関の教育現場で反映するための具体的な方法を考える事ができた。各授業・演習において授業計画を改善するためのヒントや教材化のアドバイスを頂いた。
- ・いろいろな意見交換ができて、新たに気づくことも多く学びの多い研修でした。
- ・基礎知識もあまりない状態で参加させて頂きましたが、自己での学習のもと、恵美須先生の講義で導かれ、考えることができたり、他の受講生の意見も大変学びになりました。
- ・この研修を受講するにあたり、目標を立て、ほぼ達成できたこと（助産師教育課程の見直しと他施設の先生方との情報共有）。
- ・3つのポリシーについて考え方を学べた。「望ましい助産師教育」を考える機会となった。
- ・旬な内容についてディスカッションできた。

2. 研修時期について

適切：7 名 改善が必要：1 名

- ・実習直前と直後でちょっと忙しかった。・実習と実習の間だったので・・・。
- ・調整はどの時期でも必要ですが、カリキュラムの進度的にも 10 月以降が多忙なのでよかった。気候的にも良い。
- ・実習前（6 月）と実習が始まったばかりで業務に支障なく参加しやすかった。

3. 研修期間について

適切：8 名

- ・3 日間であったこと。土日を利用してくださっているのは受講しやすかった。
- ・3 日程度は学びやすい（多すぎず）。

4. 会場について

適切：7 名 改善が必要：1 名

- ・もう少し都心だとありがたいです。
- ・交通の便がとても良かった。
- ・駅から近くてよかった。羽田から近くてよかった。遠距離の人にとってとても良い。
- ・駅から近いので便利であった。受講者数の関係もあると思うが大阪での開催も希望したい。「ファーストステージ研修」は参加希望も多いのでは。
- ・大阪もあると参加しやすいかもしれませんが私は関東でよかったです。
- ・駅から近い。

5. 講義の開始時間について

適切：8名

- ・朝、ゆっくりできた。もう少し遅ければ日帰り往復。
- ・前泊しているため丁度良い。
- ・おおむね問題ありませんでした。（9：30～でもよいかもしれませんが）

6. 講義様式について

適切：7名 改善が必要：1名

- ・課題のグループワークやプレゼンは良いが、学習の意図を研修前に提示して欲しい。

7. 講義科目のレベルは、あなたにとって適切でしたか。

- ・合っていたと思います。
- ・はい、適切でした。
- ・適切だった。適切で理解しやすかったです。
- ・適切だった。・必要な知識だったので適切だと思います。
- ・難しかったですが、色々な授業形式で導いてくださり、今後自己で考えていく力を身につけることができたように思います。
- ・有意義でよかったが、学習目的（意図）と課題が抽象的すぎると、課題への取り組みに戸惑いを感じるがあった。（抽象的な方が受講生が自分達なりに思考やディスカッションして取り組むので良い面もあったように思うが・・・）

8. プログラムの流れと学習成果の関係性について

良い：8名

- ・自分なりに学習し、考え、まとめ発表するのはニガテですが、今回は恵美須先生、村上先生の講義もあり大変学ぶものが多く、そこから発展的にカリキュラムを考えることができました。
- ・今回はコアカリの説明があったことで、急遽研修内容の変更があったような認識をもっておりますが、これはこれでタイムリーな内容であったとむしろよかったと思っています。コアカリのメンバーでもないのに実際の資料を用いて細かい内容にコメントするのはなかなか痛快でした。今後の助産師教育についてどのような方向に向いているかがこういった時間をとって頂くことでよく理解できました。

9. この研修をどこで知りましたか？

本会ホームページ：5名 職場：2名 無回答：1名

10. 受講に際し、どのようなご苦労がありましたか。

苦労があった：1名 特に苦労はない：7名

- ・日程調整。自分自身の考えや意見の整理。
- ・業務に追われる日々に、自己の考えやコアカリを読んでの考えをまとめ、表現することパワーポイントにし発表することは大変でした。しかし負担が大きすぎる課題ではないし、どのような意見や発表をしても講師や他の受講生が受け止めて新たなアドバイスや意見をくださるので安心できました。
- ・受講生に恵まれ、有意義な研修であった。
- ・そんなに苦労というわけではありませんが、実習中であり講義や演習に追われて課題提出がギリギリでした。
- ・自分のすべき仕事を研修までに集中して整理した。

11. 受講費について、職場からの援助がありました

あった：5名 なかった：3名

12. 本研修を通して改善点や意見、感想などご自由に記入してください。

- ・恵美須先生、平澤先生、大変お世話になりました。日本の助産師教育の未来をいつも心配し、見すえてくださっている先生方を本当に尊敬申し上げます。私も微力ではありますが、関西の地からコツコツとより良い助産師を育てて参りたいと思っています。またこれからもご指導ください。
- ・担当教員のアドバイスやコメントが良かった。自分が偏った考えを持っていることに気付かされた。教員の持つ雰囲気が良かった。緊張せずに自分の意見が言えた。（最後の）グループワークがもう少し長くてもよかった。全員の課題について話し合う時間がなかった。上司に勧められて参加した。敷居が高い印象だったが楽しく学べた。
- ・まだまだ未熟なので自己の課題が少し見えはじめた低いレベルのところから受講でしたので、全てグループの自主的な活動を支援して頂く研修だったら、心折れていたかもしれません。今回他の受講生を含むもちよった自己の課題に対して講義やディスカッションと発表、そしてご指導頂けたのはとても良かったです。
- ・カリキュラムの考え方が少し理解できたように思います。丁度、コアカリ案が作成させたタイミングだったため、「望ましい助産師教育」（案）を精読する機会を得られて、皆で考えることができたことは良かったです。又、教員同志の横のつながりもでき、大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・今後もぜひ続けて欲しいです。
- ・セカンドステージ研修の目的、科目（助産師教育課程概論）の概要だけでは、具体的な学習課題や内容がわからないので1日目に戸惑いがあった。ホームページ等でももう少し具体的に紹介して欲しい。恵美須先生からの“助産実践の学修”に関する内容は医学教育で目にすることもあるが、助産師教育におきかえて授業してもらえたので、今後の教育計画の参考になった。
- ・小グループでのディスカッションが楽しかった。様々な工夫や意見から次にいかせるヒントをもらった。恵美須先生のご講義は自分の講義を見直す機会となった。ありがとうございました。

13 研修を終えた後の研修の評価・感想についてお伺いします。

- ・これからのカリキュラムの作成にあたりメンバーシップを発揮できるような気がする。
- ・目標にほぼ到達した。これから講義・演習・実習を組み立てるのでできるだけ学びを反映させたい。アクティブラーニングについて他校へ見学に出かける予定。
- ・所属機関で行っている教育のメリット・デメリット・内容の見直しができ、具体的な解決策を考えることができた。
- ・学習到達度、研修の効果はほぼ達成し、学内に戻って実践（アクション）できそうです。前を向いて頑張ろうという気持ちになりました。
- ・自身がカリキュラムに取り入れたいものは見つけられましたが、それを実現するには、時間と労力が必要なので学生に教育しながら新しいことを修得していくために頑張らないといけないと感じています。
- ・来年の実習や講義の内容を躊躇することなく変更できる。自分の考えが明確になり同僚や上司に進言できる。
- ・とても良い成果が得られたと感じています。
- ・ちゃんと理解できているのかは正直わかりません。研修前よりコアカリについて関心はすごく高まりました。

14. 研修への参加で、学習効果以外の利点がありましたか。

あった：8名

- ・他の研修生と交流できた。
- ・学生に授業を行う際に、これは「理解できる」レベルでよいか「説明できる」レベルでよいかを考えて到達目標を決定するようになった。偉大な大先輩に会える！
- ・他校の教員と知り合いになれた。
- ・他の受講されている先生方との繋がり。授業見学もさせて頂ける様です。
- ・教員同志のつながり。
- ・他施設の先生方との交流は今後に大変役立つと思いました。
- ・受講生同士の交流ができ、今後シミュレーション教育等で情報交換、ブラッシュアップできる人脈を見つけることができた。
- ・他学の先生との交流が深まった。教育・研究の教育についてつながりが持てたと思う。

15. この研修を他の人に薦めたいと思いますか。

思う：8名

- ・全国（助産師教育の仲間）の人達と意見交換の場になり、その後も折に触れ助け合える。
- ・自分の課題解決になる。思っていたよりもとても楽しく学べる。
- ・とても実りある研修でした。
- ・課題を持って臨むことで学びは大きいから。アドバンス助産師の時間認定もある事。
- ・助産師教育の具体的なこと（カリキュラム等）について様々な先生方に学んで欲しいです。
- ・井の中のカワズにならず、変化できる可能性を感じるから。

16. 今後、どのような内容の教育研修を希望されますか。

- ・研究・倫理・政策など
- ・カリキュラム変更等の場合は、現行の教育を見直す機会であるため、今回のような（9/28、29）学習課題が有効だと思う。
- ・次、開講される運営に関する内容と教育への役割・管理など。（各職位における）
- ・ファーストレベルの科目履修
- ・今回あまり話し合う事ができませんでしたが、各々の異なる助産師教育課程が抱える課題とその対応策を考えることはしたいと思います。

Ⅲ 特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会

1 2019 年度 特定分野（助産）における保健師助産師看護師実習指導者講習会の概要

1) 特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会の目的

助産師教育に携わる実習指導者及び教員を対象として、教育に対する理解を深め、助産学実習における効果的な指導のために必要な知識、技術を修得する。

2) 実施地区および会場（各地区 1 回 計 2 回実施）

東京地区：東京都助産師会館・東邦大学

開催日／7 月 19・20・21 日、8 月 23・24・25 日

大阪地区：大阪府助産師会館

開催日／7 月 19・20・21 日、8 月 23・24・25 日

3) 受講生の状況

(1) 受講生の数 56 名（東京会場 22 名 大阪会場 34 名）

(2) 受講生の背景

①所属 教育機関 16 名（東京 8 名 大阪 8 名）
病院・診療所・助産所 40 名（東京 14 名 大阪 26 名）

②地区 全国 7 地区より参加

地区	北海道・東北	関東・甲信越	東京	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	計
東京会場	3	7	8	1	1	1	1	22
大阪会場	0	0	0	2	22	6	4	34
計	3	7	8	3	23	7	5	56
	5%	13%	14%	5%	41%	13%	9%	100%

地域別にみると、開催周辺地域である関東・甲信越、東京、近畿の受講者で約 7 割を占めているが、実施地区から遠方の地域の受講率も一定数を維持している。

③年齢

地区	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	計	最高	最低	平均
東京会場	4	9	5	4	0	22	54	28	38.9
大阪会場	8	12	11	2	1	34	61	26	38.3
計	12	21	16	6	1	56			38.6

受講生の年齢は、20 歳代後半から 60 歳代と年齢幅は広い。平均年齢は 38-39 歳であり、近年の傾向と同様である。

(3) 修了者数

今年度の受講者は 56 名、修了者は 54 名、未修了者 2 名は欠席による時間数不足であった。平成 27 年度から 30 年度までの 4 年間で修了生は 366 名、今年度の修了生を加え 420 名となった。

4) 講習科目と担当講師

科目名		時間数	講師名	
			東京地区	大阪地区
教育および助産に関する科目	教育原理	1.5	望月 厚志 (茨城大学 教授)	宮野 安治 (関西福祉科学大学 教授・副学長)
	教育心理	3	遠藤 公久 (日本赤十字看護大学 教授)	林 龍平 (関西福祉科学大学 教授)
	教育方法	1.5	望月 厚志 (茨城大学 教授)	細尾 萌子 (立命館大学 准教授)
	教育評価	1.5		
	助産学教育課程	3	浅見 恵梨子 (甲南女子大学 教授)	郷原 寛子 (関西国際大学 教授)
実習指導に関する科目	実習指導の原理	3	島田 真理恵 (上智大学 教授)	五十嵐 稔子 (奈良県立医科大学 教授)
	助産学実習指導の実際Ⅰ	3	山崎 圭子 (宮崎大学 教授)	
	助産学実習指導の実際Ⅱ	24	山崎 圭子 (宮崎大学 教授)	五十嵐 稔子 (奈良県立医科大学 教授)
			森 聖美 (中林病院助産師学院 教務主任)	倉本 孝子 (社会医療法人愛仁会本部 副看護部長)
			景山 直子 (前埼玉医科大学短期大学 講師)	白石 三恵 (大阪大学大学院 准教授)
			青島 恵美子 (東邦大学 講師)	

5) 助産学実習指導の実際Ⅱの演習内容

助産学実習指導の実際Ⅱの演習科目においては、16 コマ 24 時間を用いて実習指導案を作成し、最終日に発表を行った。1 グループ 3～6 人で東京地区 4 グループ、大阪地区 7 グループ編成とした。各グループが作成した指導案の内容は、以下の通りである。

<東京地区>

- ・継続事例における妊娠 32 週初産婦の助産診断と保健指導の立案
- ・分娩介助 1 例目、初産婦の分娩進行の助産診断とケア
- ・分娩介助 8 例目、高齢初産婦の分娩第 1 期遷延のリスクがある場合の診断とケアの指導
- ・産褥 3 日目の初産婦・新生児一泣いている褥婦に寄り添うケアの指導―
- ・カンファレンスの指導案：分娩介助における母児の安全について
- ・カンファレンスの指導案：産婦とのコミュニケーションについて―受け持ち開始時の産婦との関わり方―
- ・カンファレンスの指導案：産褥の心理的変化を踏まえた寄り添いケアについて
- ・カンファレンスの指導案：情報収集におけるコミュニケーション技術について

<大阪地区>

- ・継続事例妊娠 34 週時点での助産診断と保健指導案の立案
―助産診断を行い対象に合わせた保健指導を考える―
- ・分娩介助 2 例目、経産婦の分娩第 1 期活動期の診断と分娩介助準備の指導
- ・分娩介助 3 例目、初産婦の分娩第 1 期の助産診断―不安の強い初産婦に寄り添う―
- ・分娩介助 5 例目、経産婦の潜伏期から加速期における診断とケア
―寄り添いのケアの重要性に気付くことができる―
- ・分娩介助 8 例目、初産婦の分娩第 2 期の回旋異常がある場合の診断とケアの指導
―初めての異常分娩の経験を通して―
- ・分娩介助 10 例目、初産婦の順調な経過を辿る分娩進行の診断とケアの実際
- ・産褥 3 日目の初産婦・新生児―退院を見据えた支援の指導―

志望理由をみると、助産学実習等の指導経験における自らの課題をそれぞれ持っており、他者との意見交換を望む声が多かったため、助産学実習指導の実際Ⅱに「自由課題」2 コマを組み込んだ。グループ毎に課題を設定し、課題に対する具体的な解決策について議論し、発表を行った。自由課題の内容は、以下の通りである。

- ・指導者と教員の連携
- ・実地指導者とスタッフとの連携の難しさ
- ・指導者間の連携
- ・母性看護学実習での男子学生への関わり
- ・臨床における指導の現実と理想のギャップ

6) 演習(助産学実習指導の実際Ⅱ)の学習結果

◎ 分娩介助における母児の安全について（カンファレンスの指導案）

1. 科目名

助産学実習

2. 実習期間

2019 年 9 月 1 日～1 月 31 日

3. 対象学生

A: 大学 4 年過程の看護学科卒業 23 歳 県立専門学校 助産学科

B: 看護専門学校 3 年過程卒業 23 歳

4. 学生の状況（本人の認識）

A さん

初めて親元を離れて入寮。大学では看護師・保健師の資格を取得。未婚。自身の妊娠・分娩歴なし。
母性看護学実習では分娩を見学したことがなかったが、実習での指導者(助産師)へ憧れて助産師を目指した。明るく積極的で、やや緊張しやすい性格である。

B さん

実家から通学。3 人兄弟の末子。未婚。自身の妊娠・分娩歴なし。
母性看護学実習では、初産婦の分娩見学を 1 件した。母親も助産師で、なんとなく自分も助産学校に進学した。性格は、大人しく、緊張しやすい。自分から発言するタイプではない。

5. 実習場所

総合病院

6. 実習時間

8 時 30 分～17 時 30 分 *分娩進行している場合、21 時までに実習終了なら延長可能

7. 実習目標

仮定校 資料 2 参照

- ①分娩期の基本的な助産診断と経過の予測に基づいた分娩介助ができる。
- ②正常分娩の介助を、安全に 10 例介助することができる
- ③産婦が正常経過をたどるよう支援するとともに、異常の早期発見ができる。
- ④産婦・家族共に出産体験を分かち合い、対象者の体験を考察できる。

8. カンファレンス指導計画

(1) カンファレンス（場面）の考察

①教材観

助産師に求められる能力として、助産診断・技術の指定規則でも単位数を増やす動きがあったりと分娩介助の診断・技術の習得は重要である。また、産科領域は、医療訴訟も多いことから母児の安全は分娩介助を行う上で、最優先に考える必要がある。よって、学生であっても安全を考えた分娩介助を行っていくことが求められる。グループ同士で情報を共有しあい、安全について考えることは意義が大きい。

今回のカンファレンスでの学習内容は以下のとおりである。

- 1) 分娩期に関わる安全を考える。
- 2) グループ間で情報を共有しあうことで、知識を深める。
- 3) Bさんの事例を扱うことで、Bさんの発言の機会を設け、グループダイナミクスが活用できる
- 4) Aさんは経産婦の分娩進行を知ることができる

②学生観

分娩介助実習開始後 1 週間。

2 人の関係性は学内実習でグループワークを一緒に実施したりする程度。

お互い声を掛け合って実習ができるような雰囲気である。

A が声をかけていて、B は聞き役のことが多い。

A: 分娩介助 1 件目、初産婦の正常分娩を介助した。

分娩介助につくことに必死で産婦の周りの環境を整えることまで考えられていなかった。

また、会陰部だけを見ていて、胎児心拍が低下していることにまで気が回らなかった。

不足物品があったが、すぐ近くにいる指導者に依頼できず、自分で取りに行こうとしてしまい、指導者から指摘を受けた。

B: 分娩 1 件目、初めて経産婦の正常分娩を介助した。

A さんと同様、産婦の周りの環境にまで気が回らなかった。

分娩室に移動した際に、進行していると思い、分娩台に乗ってほしいタイミングであったが、産婦が努責がかかっているため分娩台へ移動できなかった。その際に、自分で分娩台へ促すことができなかった。そこで指導者がサポートして分娩台へ移動した。経産婦への分娩介助に対して不安を感じている。

今回の学生 2 名を以下のようにとらえる。

- 1) 産婦の周りの環境にまで配慮ができていない。
- 2) 分娩介助に集中して視野が狭くなっている。
- 3) 分娩進行のイメージが持てていない。
- 4) 物品の不備に気を取られてしまい、優先順位が立てられていない。
- 5) 分娩介助 1 例目であるため、緊張が強い
- 6) カンファレンスを行ううえで、B は性格上、自ら発言をしないタイプのため、グループダイナミクスが活用できない可能性がある。

③指導観

今回のカンファレンスで特に留意したい点

- 1) 分娩介助を行う上で、安全が最優先であることを再認識してもらう
- 2) 普段、発言の少ない B さんの発言を促す
- 3) 今回の事例を通して安全に配慮した課題を見出すことができる
- 4) カンファレンスを行うことで、他人の経験が自分の経験として活用できることを学ぶ

(2) カンファレンス（場面）の指導目標

- ①分娩介助時の自分の状況がわかる
- ②自分の意見を述べることができる。
- ③事例を通して、安全について考えることができる
- ④自分の精神状態によって行動に影響が出ることを知ることができる

【対象の設定】

(3) カンファレンス（場面）の指導計画

時間	指導（学習）内容	指導方法・留意点	評価の視点
16:00 16:10	分娩介助 1 例目の事例から安全について考える A、Bそれぞれの話を聞く 分娩介助をしている時の緊張状態について振り返る	B さんに 1 例目で経験したことを発表してもらう。 B さん「今回、分娩台に乗る前に産婦さんがいきんでしまって、自分だけでは分娩台に乗ってもらうことができなかった。指導者さん達に多くのサポートしてもらっての分娩介助となった。自分では何もできなかった。」 ・ A は B に共感 発問 「その時、B さんは何を感じましたか？」 B 「怖かったです。」 ・ B の発言に対し共感する 発問 「A さんは 1 例目を介助した時に何を感じましたか？」 A 「とにかく焦っていた。」 発問 「2 人が今まで同じような緊張した場面はあったりしましたか？」 ・ 2 人で話し合ってもらう ・ 同じような場面での自分の状況を話してもらう 発問 「緊張すると、いつもの自分だったらできることが、できなくなることもありますよね。」 発問 「普段 2 人がリラックスするためにしていることはありますか？」 ・ 2 人のリラックス方法について話してもらう	B が自身で事例について説明ができるか。 分娩介助時の緊張状態について振り返ることができるか 討議の中で体験を意味付けることができるか

	緊張していると、自分の行動に影響が出ることを知る	発問 「緊張している時に緊張がほぐれる方法を知っていることってすごく大事ですよ。」 「緊張していると、指導者に相談ができなかったり、周りが見えなくなったりすることもあると思います。」 「緊張が緩めば、もっといろんなことが見えたり、できたりしますよね。」	緊張していると、自分の行動に影響が出ることを知ることができているか
--	--------------------------	--	-----------------------------------

【学び】

- ① 学生の人数により、その人数分の3観を考えるのが難しかった。
- ② 学生のレベル（今回は分娩介助1例目）を考えての指導案が難しく感じた。
- ③ 学生がグループダイナミックスを活用できるように発問することが重要であると学んだ。
- ④ 指導者の発問次第で目標が達成できるのかが左右されることが分かった。

◎ 産褥3日目、母乳育児がスムーズにいかない初産婦へのケアー泣いている褥婦に寄り添う ケアの指導ー

仮定助産師養成学校の設定条件

設置主体 公立学校法人 ○○大学 大学院

定員 1 学年 5 名

教育理念：1. ひとのいのちを尊び倫理性豊かな医療人を教育・育成する。
2. 最新かつ高度な医学および看護学を研究・創造する。
3. 県民の基幹施設として、全人的・統合的な医療を提供する。

教育目的：本課程では、ヒューマン・ケアリングを実践できる「知・技・心」を備えた助産師の育成を目指す。また、助産の実践のみならず、教育。研究の発展に寄与する人材を育成し、助産におけるヒューマン・ケアリングそのものを維持、向上をはかる。

教育目標：1. 周産期としての必要な女性の生涯を通しての健康に関する課題に対して、必要なケアを提供できる基本的実践能力を養う。
2. 女性や家族の多様な価値観を認識し、共感的にかかわり、職業倫理に基づく行動がとれる能力を養う。
3. 医療保健チームの中で生命倫理・医療安全に基づく助産師の役割を認識し、他職種間と連携し、協働できる基本的な能力を養う。
4. 批判的な思考と科学的根拠に基づく判断ができる能力と心理を迫及し、研究してゆける態度を養う。
5. 「知・技・心」を備え、創造的に助産を実践する。
6. 助産実践を通じて省察し、プロフェッショナルリズムとしてリーダーの資質を養う。
7. 助産師が行なう医療安全と災害医療管理能力を養う。
8. 助産師として社会のニーズに対応できる能力を育成する。

教育課程で大事にしたいこと：

1. 人に対する暖かいまなざし
2. 助産の専門性の追求
3. 根拠に基づいたケア
4. 家族を含めた対象の主体性の尊重（当事者の感覚・感性を大事にする）
5. 寄り添い、見守るケア
6. コミュニケーション
7. 人権・希望を保障する
8. 智に学習し、智に育っていくパートナーシップ
9. 助産師としての自覚と誇り
10. 自分に優しく自分を愛する

産褥3日目、母乳育児がスムーズに行かず涙を流している初産婦を受け持っている学生。ケアを考える場面。

1. 科目名：助産学実習（継続事例）
2. 実習期間：2019年7月11日～10月19日（11週間）本日実習2週目（2事例目の産褥3日目）
3. 対象学生：小安莉栄 22歳 大学院修士課程1年

4. 学生の状況（本人の認識）：

県内の看護大学を卒業後、初めての一人暮らしをしている。看護大学では看護師と保健師のコースをとった。母性看護学実習で助産師の仕事に興味を持ったが、助産のコースはその時点では選択できなかった。大学での成績は良かった。看護学実習では経産婦を受け持ち経過が順調であった。看護過程の展開やカンファレンスは充実していたと思うが、実際の援助は見学がほとんどだった。分娩介助の学内の演習などは戸惑いがあった。

性格は明るく積極的と言われるが、物事を決める時など人に合わせるほうが楽と思うので、自己主張は強くないと思う。

母親の設定：

43歳、38歳より5年間不妊治療。会社員。実母70代、90代の介護をしている。里帰り。実母疲弊している。サポートを得られず。東京在住。夫45歳。会社員。立ち会えなかった。仕事優先。1回子どもを見に来た程度。母親は完全母乳希望。

37週3日前期破水。微弱陣痛で促進分娩、2：11 2700g男児。分娩時間48時間。出血量600ml。会陰裂傷2度、学生が分娩介助した。分娩当日12時より同室。1型仮性陥没乳頭。10か月になったら乳頭刺激をする予定であった。

当日と翌日はハイテンション。夫は1日目に面会。産後2日目7月21日（日）夫面会予定であったが、ゴルフ接待で来れなくなった。深夜帯の申し送り。上手く吸ってくれない、児は吸ってくれない。傷痛あり。睡眠あまり取れず。3日日月曜日に乳緊上昇。泣いていたという申し送りあり。

5. 実習場所：〇〇大学付属病院

6. 実習時間：月～金 8：30～16：30（ただし継続事例は土日も実習あり）

7. 実習目標：〇〇大学大学院助産師学科（修業年限2年）

詳細は資料2参照

8. 実習指導計画

（1）本実習（場面）の考察

① 教材観

臨地実習は学生が既習の知識・技術と態度を統合し、助産診断・ケアの実践能力を身に着けるための学習である。そして、助産実践を通して、専門職としての自己のあり方や学生としての助産観を育むことができる機会である。

また、継続事例ということで、その患者を通して、妊娠、分娩、産褥、新生児や乳幼児とその家族に対して連続性のあるマタニティサイクルを理解し、実践能力を身に着けるための学習でもある。

今回は高齢初産ではあるが、その他妊娠経過は異常がなく経過しているケースであり、妊娠中期から関わっている継続事例である。妊娠期から得ている情報も含めて、現在の産褥期の身体的変化（進行性変化、退行性変化）や心理的变化、新生児の胎外生活の適応過程、児への愛着や親役割行動など、母子の状況を総合的に考えながら助産診断ができ、今後の状況の変化を予測した上で、個別性のある助産計画の立案から援助に結び付ける過程を学習する。

② 学習者観（学生観）

現在、青年期にある学生は核家族化、少子化社会で育ち、コンピューター社会の影響を受け、対人関係が希薄になっており、他人との関わりをもつことができにくい人々が増えている。また、SNSなどを通じて文章でのコミュニケーションは比較的得意ではあるが、直接会って話をするなどコミュニケーションをとることに苦手意識がある者も少なくない。

学生の背景として、県内の看護大学を卒業しており、その後大学院に進学を機に、初めての一人暮らしを開始している。育った家庭は教育を受けることに理解があり、経済力もある程度あると考えられ、本人は学業に専念できる環境にあると考えられる。

明るくて積極的な性格ではあるが、同調しやすい一面があり、自己主張はあまり強くない。母乳育児をしっかり支援できる、また心理的援助ができる助産師になりたいと思っている。

看護大学では、看護師と保健師のコースをとっており、大学での成績は良かった。保健師のコースも取っているため、健康教育や保健指導についての重要性も理解している。

現在の大学院では、助産診断技術学やその他の関連科目については一通り学内で学んでいるが、大学時代の母性看護学実習では実際の援助は見学がほとんどであったり、学内の分娩介助の演習などには戸惑いがあった状況である。

また現在一人暮らしということで、身の回りのことをすべて自分自身で行わなければならない状況であるが、実習中は緊張や不安などのストレスが生じ、通学中とは異なった生活環境に置かれている。

現在、臨地実習の2週目であり、今回3事例目で継続事例である。

妊娠中期から6回の妊婦健診の関わりの中で、個別性のある保健指導も指導者や教員の援助を受けながら実施できており、関係性は良好である。今までの実習経験は、すべて経過が順調であった経産婦を受け持っていたため、今回初めての初産婦の受け持ちである。現在の母親の状況に巻き込まれ、方向性を見失いそうである。

③指導観

初めて初産婦を受け持っていること、患者の泣いているという想定外の情報を得て、学生は緊張や不安が予測され、さらに現在の母親の状況に巻き込まれ、方向性を見失いそうになっているが、この実習でぜひ学ばせたい内容としては、

- ・母の乳頭・乳房の現在の状況、新生児の状況を把握し、母子相互作用をふまえて、授乳がうまくいっていない理由をアセスメントして、援助計画を立案してほしい
- ・非言語コミュニケーションを含めた様々な情報から、患者がなぜ泣いているかの理由を考えられるようになってほしい
- ・患者の気持ちに寄り添い、共感し、相手の気持ちを理解しながらも、意図的な関わりが実践できるようになってほしい
- ・学生は初産婦と同じ立場にたてる強みを生かし、患者と共に学んでいくというような姿勢をもち、患者との信頼関係を保ち続けてほしい
- ・今の自分にできること、できないことを正確に把握できてほしい
- ・柔軟な思考、想像力を養ってほしい。

の以上の点である。

(ア) **精神運動領域**：なぜ泣いているのかの理由を考えられるようになってほしい。褥婦に直接話を聞いて相手の気持ちを理解できるようになってほしい。

(イ) **認知領域**：授乳がうまくいっていない理由をしっかりアセスメントしてほしい（乳頭の状況・新生児の状況・その他の理由などの情報）。

(ウ) **情意領域**：褥婦の気持ちに寄り添ってかわかってほしい。信頼関係を保ってほしい。

4 本実習（場面）の指導目標

- ① 産褥3日目の診断に必要な情報がわかる。
- ② 新生児3日目の診断に必要な情報がわかる。

- ③ 褥婦の経過および健康課題をアセスメントできる。
- ④ 新生児の経過および健康課題をアセスメントできる。
- ⑤ 対象の置かれた心理的状況について対象にしっかり寄り添い気持ちを理解する。
- ⑥ 看護介入の方向性を考え、実践できる。

5 本実習（場面）の指導計画 事例3 初産婦産褥3日目

時間	指導（学習）内容	指導方法・留意点	評価の視点
8:30 申し送りの後 の行動調整	1. 産褥・新生児の経過について情報を得てアセスメントできる。 前日の実習（日曜日の午後）から本日（月曜日）の朝までの情報を得る。 ・産褥の退行性変化、進行性変化、心理的变化 ・新生児の生理的变化	・深夜の申し送りで「泣いていた」（深夜Ns理由は詳しく聞けていない） →泣いていたことについて学生がキャッチできているか。 →泣いていることについて情報を重要視できていない場合。 【発問】今日の申し送りで気になったことあった？	・泣いていることの理由について考えようとしているか。
	2. 対象の理解 ・対象の経過が正常の経過であるか、判断できる。 （産褥の経過が正常か。子宮復古、乳房変化、育児技術、創痛など） ・心理的变化（マタニティーブル？何か原因があつての感情の揺れ？） ・泣くに至った理由を想起できているか。	・正常な経過と対象の経過をすり合わせてアセスメントできているか。解釈できているか。 【発問】今日の申し送りで気になったことあった？	・正常なところと逸脱しているところをとらえているか。 ・泣いていることに着目することができる。
	・泣きの予測ができる。褥婦の泣きに対してどのように寄り添うのか。いろいろが原因を学生が考えられる。どのように声かけようとしているのか。	【発問】 「どうして泣いているのかなあ？」一緒に考える。 「どんなふうに声かける？」	・いろいろ考えられるいくつか挙がってくる。 ①仮性陥没、乳緊強くなりづらい ②夫が来なかった ③ベビーがひっきりなしに泣く、体重減少 ④睡眠不足 ⑤疲れがピーク ⑥会陰切開の痛みなど
	・新生児の経過（体重の減少率や排泄状況、黄疸など含め）や授乳の状況を把握できる。	・吸い付き方や乳房の変化について2日目の状況を踏まえ3日目の予測ができているか。	・3日目の乳房の変化を予測できるか。
	・自然な流れで一つ一つ確認しながら対象の心理を聞く方法が考えられる。	・自然な流れで心理を聞ける。 【発問】「じゃ、どうやって聞く？」	・質問攻めにならないように褥婦の発言を待てること

	・母親のスケジュールを把握した上で行動計画を立てられる。	・タイミングを計って聞くことができる。 【発問】「どういう順番で聞いてくる？」	・授乳表を見たり、褥婦の指導スケジュールを確認できる。 (午前中は何も指導はないという設定で・・・) ↓ いきなりどうして泣いたのかを聞くのではなく、授乳はどうですか？・・・など声をかけながら
	・対象の状況に応じた声かけができる。	・いろいろなパターンを考えることができる。例えば ①寝ていたら・・・ ②授乳していたら・・・ ③泣いていたら・・・ ④何もなかったら・・・	・対象の状況に応じた行動や声かけを考えることができる。
9:30 訪室時	・指導者と共に訪室し、学生メインで情報収集と観察ができる。(何が原因で泣いているのかも)	・泣いていることについて意図的に情報を得ることができる。 なかなか学生が意図的に聞けなかったら、 【発問】赤ちゃん元気に泣くようになって大変ですね・・・共感しつつ、一番つらいのは何ですか？などモデルとなるような傾聴的な関わりを示す。 ・留意点として、相手の反応を待つ沈黙の時間も大事であることを指導者が示す。	・泣いた理由を得られればOK ・相手の言葉を引き出すような質問の仕方ができる。
10:30 訪室後	・訪室時の状況を報告できる。	・学生の報告を受けて、傾聴的態度を認める。ケアの優先度を考えられるように促す。 【発問】話を聞いてどう思いましたか？ ・学生がケアの優先度を考えられなければ、【発問】何が一番重要だと思った？と声をかける。 ・ケースカンファレンスにつなげて、学生間の学びを深める。	・学生が考えた「泣いていた要因」を複数あげられる。 ・ケアの優先度を考えることができる。

◎分娩介助 5 例目経産婦、潜伏期から加速期における診断とケア

-寄り添いのケアの重要性に気づくことができる-

1. 科目名：分娩実習Ⅱ
2. 実習期間：令和元年 10 月〇日～令和元年 12 月〇日
3. 対象学生：〇〇専門学校 助産学科 21 歳 B さん
4. 学生の状況：

実家暮らし。〇〇専門学校を卒業し、看護師免許を取得している。母親が助産師で、同じ職に憧れて〇〇専門学校に入学した。学習意欲はあり、積極的に学ぶ姿勢が見られていた。1～4 例目までは、初産婦の緩やかな経過の受け持ちや、経産婦では分娩第 2 期間近からの受け持ちのみであった。指導者の助言を受けながら分娩経過は診断できており、介助技術の獲得も到達目標に依っていた。産婦とのコミュニケーションは良好にできているが、気を使いすぎる傾向があり、訪室する回数が少なく、寄り添うことが苦手であった。

5. 実習場所：〇〇病院 産科病棟
6. 実習時間：8:30～16:30

※分娩が進行している場合、20:00 までに実習終了ならば延長可能

7. 実習目標：
 - ① 分娩進行状態に応じた、安全で安楽な分娩介助技術を習得する。
 - ② 助産診断に基づいた、母子および家族が満足のいくケアの提供と適切な評価ができる能力を習得する。
 - ③ 分娩進行に伴う異常発生の予測と判断、助産師の役割を理解する。
8. 指導計画：
 - 1) 本実習「状況」（場面）の考察
 - (1) 教材観

今回は対象に、分娩介助 5 例目経産婦、分娩第Ⅰ期潜伏期から加速期における助産診断とケアの指導ができるよう選定した。（産婦の詳細は下記を参照）

分娩進行状態を診断するためには、内診所見だけではなく、産婦に寄り添いながら五感を使って細やかな観察を行うことが必要である。外診所見を活用することで、産婦が示す変化に敏感に気づくことができ、子宮口開大や胎児下降度を具体的に予測した上で内診を行うことができる。特に経産婦の分娩経過は、初産婦の経過と比較して急速に進んでいくことが多い。産婦に寄り添いながら外診所見の変化に気づき、適切な経過診断を行うことが、安全な分娩介助につながる。

また、産婦に寄り添うことは、不安や恐怖を抱く母体の精神面に安心をもたらし、緊張感を緩和させることができる。それが、痛みの閾値を高め、感受性を低下させ、全身疲労の軽減につながる。また、全身がリラックスできるようになり、血液循環が促進され、軟産道の抵抗と腹壁の緊張を低下させる。これらのことが、分娩の三要素に正の影響を及ぼし、分娩を促進させることができる。

これまでの分娩介助では、寄り添いのケアを実施する機会が少なかったことから、本事例の経産婦の場合は、家族の付き添いがなく、1 人での分娩となるため、そこに介入することで寄り添いのケアを学ばせることができると考える。

以上のことから、経産婦の第Ⅰ期の助産ケアを通して、急速な進行が予測される経産婦の助産診断とそのために必要となる産婦への寄り添いケアの重要性を学ばせたい。

※受け持ち対象者の状況

- ・ A 氏 年齢 34 歳 163cm 65kg(避妊時体重 58kg)
- ・ 自然妊娠
- ・ 2 回経産婦
- ・ 既往歴、合併症、感染症、アレルギーなし
- ・ 性格：我慢強い性格
- ・ 夫は自宅で上子の世話をしているため、家族の付き添いなし
- ・ 分娩歴：第 1 子 40w3d 2870g 男児 自然経膈分娩 所要時間：16 時間
第 2 子 39w5d 3200g 男児 自然経膈分娩 所要時間：8 時間
上子 2 人は里帰り分娩のため、分娩時に夫が立会いをした。
今回は里帰りをしないため、夫は立会いができない。

37w6d 最終妊婦健診	内診所見：子宮口 1 指 展退 30% St-3 位置：後方 硬度：中 EFBW=2760g 妊娠経過良好 胎児健康状態良好
38w0d～38w2d	深夜帯に不規則な前駆陣痛あり 睡眠不足が続いていた
38w3d 7 時 30 分	6 時頃から 15 分間隔の陣痛あり 7 時頃から 10 分間隔と電話連絡あり 破水なし 産徴出血付着程度 胎動あり 来院するよう伝えた
8 時（入院時）	内診所見：子宮口 3cm 展退 70% St-3 位置：後方 硬度：軟 矢状縫合は横径に一致 未破水 卵膜触れる 陣痛周期 7-8 分 発作：30 秒 発作時も会話可能 CTG モニターにて胎児心音 reassuring 所見を確認 朝食は自宅で摂取してきている
8 時 30 分	学生の受け持ちを依頼し、快く了承を得る。 陣痛著変なし 学生と再度訪室することを伝え退室した。 学生に受け持ちの了承が得られたことを伝え、情報収集を促した。

(2) 学生観

これまでの分娩介助 4 例を通して、「分娩経過を観察し、指導を受けながら援助が実施できる」「指導者とともに分娩介助技術を実施できる」という到達目標は達成できていた。実習に対しての積極性や主体性があり、指導を受けたことは自己学習や振り返りを通して習得することができている。しかし、これまでの分娩介助では、分娩経過を陣痛周期や発作など数値として得られる情報から判断する傾向にあり、産婦のそばに寄り添いながら外診所見を収集し、経過を判断することは難しい。また、これまでの分娩介助では家族の付き添いがあり、家族関係の構築を優先させていたため、具体的な分娩第 1 期の助産ケアを主体的に行うことができていなかった。

(3) 指導観

学校では、分娩 4～7 例を「分娩進行度が理解できる時期」と設定している。また、その中でも、助産診断では「外診により分娩進行状態が診断できる」、技術では「内診を適切な時期に実施できる」、ケアでは「産婦に合った産痛緩和のケアが実施できる」「産婦に必要な環境を整えることができる」「産婦のそばにいて心理的サポートが実施できる」という到達目標に焦点を当てて指導を行う。

助産診断では、これまでの分娩介助で初産婦の分娩進行は、指導者の助言のもとに診断できているため、経産婦の分娩進行の助産診断の能力を向上できるようにしたい。そのために、産婦に寄り

添いながら外診所見を観察することで、急速な分娩進行の助産診断ができることを気づけるよう指導していく。

ケアにおいては、寄り添いのケアを実施する機会が少なかったことから、今回は寄り添いのケアは何故必要なのか、そのためにはどんな助産ケアがあるのか、そのケアが産婦にどのような影響を及ぼすのかを学生が具体的に理解できるように指導を行う。また、寄り添いのケアを学生とともに実施し、そのケアが産婦に及ぼした影響をフィードバックすることで、ケアの意味付けができるように指導する。

2) 本実習「状況」（場面）の指導目標

産婦に寄り添いながら観察することの重要性に気づけ、分娩経過を診断できる

- (1) 産婦の外診所見の観察項目が述べられる
- (2) 問診・触診・視診を通して外診所見を収集することができる
- (3) 収集した外診所見をアセスメントできる
- (4) 陣痛周期など数値化できる情報と外診所見を統合して診断できる
- (5) 初産婦と経産婦の分娩進行の違いを理解することができる
- (6) 産婦に寄り添うことの必要性を理解できる
- (7) 寄り添いのケアの方法を選択し、指導者とともに実施できる
- (8) ケアが産婦に及ぼした影響を指導者の助言のもと評価できる

本実習状況の場面の指導案				
時間行動	指導（学習）内容	指導方法留意点	学生の反応（予想）	評価の視点
8:30 受け持ち決定	産婦の情報収集	受け持ち患者を提示し、情報収集に要する時間の調整を行う 指示・説明 「Aさんの受け持ちの許可が得られました。30分後に行動調整をしましょう。それまでに情報収集と初期診断を整理してください。」		決められた時間内に優先順位を考えた情報収集を行うことができる
9:00 行動調整	学生の自己課題の明確化	これまでの分娩助産での課題を確認する 質問 「今日の実習目標を教えてください。」		これまでの事例を踏まえた自己課題を述べることができる
9:20	情報収集の視点の整理 【訪室時に観察する項目】 ・母体のバイタルサイン ・睡眠状態	訪室前に産婦の観察項目を整理しておく 発問 「挨拶に何う時に、どんな情報を収集しますか？」	陣痛周期や発作時間、バイタルサインなど触診・計測	必要な観察項目を述べるができる

	・食事摂取量 ・排泄状況 ・陣痛周期 ・陣痛強度 ・発作持続時間 ・疼痛部位 ・胎児健康状態 ・胎位、胎向 【外診所見】 表 3-1 1 参照	発問 「外診所見の観察項目は何かありますか？」 指示・説明 「どんな観察項目があるか教科書と一緒に確認してみましょう。」 観察項目を確認し、訪室時に意識的に収集する観察項目を明確にしておく	診は述べる事ができた 「・・・。」 学生は回答に詰まる	不足している情報に気づくことができる 外診所見の観察項目が分かる
9:30 挨拶	情報収集の支援	産婦へ挨拶を行い、その中で助産診断に必要な観察項目が収集できるように支援する 産婦とコミュニケーションを取りやすいようにサポートする 情報収集に不足がないか見守りながら確認する。 不足があれば助言する。	自分から産婦に話しかけ、問診・視診・触診・計測診を通して積極的に情報収集する行動が取れている。	必要な情報を自分で収集することができる
10:00	情報の整理と統合	収集した情報から、助産診断、ケアプランの立案を支援する 発問 「先ほど整理した外診所見で観察できたことはありましたか？」 「外診所見を観察することができましたね。」 発問 「先ほど挨拶に伺った時に A さん何かおっしゃられてなかったですか？」 発問 「その発言に対して何か出来ることはないですか？」	「発作時に自分で腰をさすっていました。発作時だけ少し会話に詰まっている気がしました。」 「上の子のときの陣痛を思い出して、怖くなってきた。今回は夫がいないから心細いです。とおっしゃられていました」 「腰が痛そうだったので、産痛緩和をしながら A さんのそばにしようと思います」	観察した内容を述べる事ができる 不足している情報に気づくことができる 産婦のニーズに気づくことができる 産婦の状況から必要なケアを選択することができる。
10:30 再訪室 助産ケアの実施	再訪室し、学生とともに産痛緩和のケアを実施する	学生が主体でケアが行えるようにする 力の加減や部位など助言しながらケアを行う	産婦に声かけを行いながら腰部をさすり、産痛緩和のケアができています	指導者とともにケアを実施することができる

11:30 助産ケア 実施中	観察の視点、状態の変化に気づけるように導く 【観察項目】 ・陣痛周期 ・発作時間 ・陣痛強度 ・胎児健康度 【外診所見】 表 3-1 2 参照	産婦の状態に変化があることを学生自身が気づけるようにする 発問 「先ほどと産婦さんの様子が変わってきましたね。何か気が付いたことがありますか？」 発問 「他に気づいたことはないですか？」 説明 「そうですね。よく気づけましたね。他にも発作時に体に力が入っていて、苦悶様表情も見られてきていますね。」 発問 「気づいたことを踏まえて、今の状態をどう診断しますか？」 「外診所見から分娩進行に気づけたのが良かったですね。一緒に内診してみましよう」	「陣痛周期が 3 分毎で発作は 50 秒になっています。声のできて、先ほどより痛みが強くなっているように感じます。」 「腰さする位置が下がってきているのと、汗をかいています」 「分娩第 1 期加速期に入っていると考えるので、内診をして分娩進行状況を確認しようと思います」	分娩進行を表す外診所見がわかる 不足している情報がわかる 外診所見と合わせて分娩時期の診断ができる 内診察のタイミングがわかる
11:45 内診施行	分娩進行の診断	発問 「内診所見はどうでしたか？」 学生の内診所見と指導者の所見をすり合わせる 指示・説明 「分娩が進行しているのでフリードマン曲線を用いて分娩予測を修正しましょう」 学生と一緒に確認する 指示・説明 「そうですね。2 回経産婦なので予測よりもさらに分娩進行が早まることも考えられます。早めに分娩準備をしていきましょう。」	「子宮口 6cm 展退は 70% St-1 で先ほどより所見が進行していました。」 「あと 1 時間 30 分で子宮口全開、その後 30 分で分娩になると考えます。」	経産婦の分娩進行がフリードマン曲線を用いて理解できる。 前回の分娩も踏まえ、今後の分娩経過を考えることができる

16:00 分娩後の振り返り	実施したケアの意味付け	分娩後の振り返りにて、学生のケアが分娩進行につながり、産婦に付き添っていた事で外診所見がわかり進行に気づけた事に気づけるように振り返りを行う またその事を通して寄り添いのケアが重要である事を理解できるように伝える 「最初に考えていた分娩予測よりも早い分娩進行だったので驚きましたね」 発問 「分娩進行に変化があったのはどの時点だったかわかりましたか？」 「そうですね。その時点から分娩進行が早くなりましたね。」 発問 「分娩進行があったのは何故だと思いますか？」 発問 「そうですね。では何故陣痛がきている中でも休息をとることができたのでしょうか？」 説明 「家族の付き添いがいない代わりに、Bさんが産婦さんのそばにいて産痛緩和を行ったことで、産婦さんが安心してきて休息をとることができたと思いますよ。」 「良い気づきができましたね。その他にも、産婦さんに寄り添っていたことで、外診所見の変化に気づくことができ、そこから分娩進行を診断できていましたね。」	「経産婦の分娩進行は早いとわかっていましたが、想像以上で驚きました」 「ウトウト寝ていた産婦さんが急に目覚めて痛がり始めたところだと思います。」 「休息が取れたからだと思います。」 「・・・」 学生は答えに詰まる。 「そばにいたことが分娩促進のケアにつながるといっていませんでした。」 「初めて外診所見の変化に気づくことができました。産婦さんのそばにいないとわからない変化だったので、そばにいたことは重要ですね。」	経産婦の分娩進行の違いが理解できる 学生が産婦の変化に気づくことができる 分娩進行に与える影響がわかる 実施したケアの意味付けをすることができる 寄り添いのケアの重要性に気づくことができる 次への課題がわかる
---------------------------	--------------------	--	---	--

◎継続事例妊娠 34 週時点での助産診断と保健指導案の立案

-助産診断を行い対象に合わせた保健指導を考える-

1. 助産学実習：妊娠期の助産診断ケア実習

2. 実習期間：令和元年 8 月〇日～令和元年 8 月〇日

3. 対象学生：丸岡大学 助産学専攻 天王寺サイコさん 21 歳

赤ちゃんが可愛くて小さい頃から助産師になりたかった。母が妹を出産する時に立ち会い助産師に憧れて志望した。

性格は活発。暗記はできるが応用ができない。その場の雰囲気に合わせて行動できるがアセスメントが伴っていない。助産実習 2 週目で、対象妊婦に会うのは初回で見学実習予定。

4. 実習場所：〇〇病院

5. 実習時間：8：30～16：30

6. 実習目標

- 1) 妊婦や家族の日常生活に応じた個別的なケアを考え実践する。
- 2) 妊婦や家族が望む、満足いくお産に向け支援する。
- 3) 家族メンバー全体の健康状態と発達課題をアセスメントする。
- 4) 出生児を迎えた生活環境や生活背景をアセスメントする。
- 5) 継続的な妊婦とのかかわりから、分娩・産褥期を見通したケアを実践する
- 6) 良好なコミュニケーションから信頼関係が築けるようにする。

7. 対象者

五島鶴子さん

初産婦 28 歳 保育士

既往歴なし 既往妊娠歴・分娩歴なし 自然妊娠

身長 158cm 非妊時体重 50kg (BMI20.0) 現在 59kg

性格は明るくて優しい 趣味は料理

夫 30 歳 会社員 健康状態良好

妊娠経過

妊婦健診は定期的に受けている 妊娠経過に GDM、HDP などの異常なし 感染症なし

現在までの妊娠経過は別紙参照

8. 指導計画

1) 本実習の「状況」（場面）の考察

(1) 教材観

妊娠は、本来生理的なものである。しかし、正常な経過をたどっていると思われていても逸脱することもある。妊娠期の健診の目的として、①妊娠の診断と妊娠週数の確定②母体の生理的・機能的・形態的变化を観察し、妊娠の時期に相応する変化をとげているかを診断する③偶発合併症や産科異常の有無を診断④胎児の発育と健康状態の把握⑤ハイリスク因子の発見⑥妊婦自身のセルフケア能力の評価がある。

妊娠後期では生理的变化から妊娠性貧血、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群を引き起こしやすい。そのため異常も視野に入れた指導をしていく必要がある。

そして、分娩に向けて心身の状態を整え主体的に分娩に臨めるよう支援していく必要がある。助産師は、正常な経過をたどるために逸脱の早期発見、早期介入が求められる。正常な妊娠経過を観察、診断し予測できる能力と技術が必要とされる。

今回は、正常からの逸脱（妊娠性貧血）に気づき指導の必要性に気づいて欲しい。診断指標としてHb11g/dl未滿、Ht33%未滿は妊娠性貧血と診断される。妊娠性貧血を引き起こす妊婦は全体の20～30%みられる。妊娠性貧血が周産期に及ぼす影響として胎児発育不全、妊娠高血圧症候群、微弱陣痛、弛緩出血、産褥期の回復不良、乳汁分泌不全、また乳児の貧血が挙げられる。

(2) 学生観

助産学に関する講義は、地域母子保健・助産学研究を残している。学内の成績は優秀である。学生は助産実習開始2週目である。分娩介助は1例済んでいる。その時に分娩経過の診断予測ができず、ほとんど指導を受けていた。対象者との人間関係は良好であった。退院指導の時に知識が曖昧なまま対象者の質問に回答することがあり指導者の助言を受けた。加えて、その場の雰囲気ではアセスメントが伴わず行動する傾向がある。

今回、妊娠期の受け持ちは初めてで、継続事例の1回目の健診見学であり、次回の健診時には自身が立案した保健指導を実施する予定である。

学生の状態としては、妊婦との関わりは助産学生としては初めてであり、緊張している。また、これまでの妊娠経過が正常であったことから逸脱に気がつかず、ルーチンの保健指導案しか考えられない事が予測される。

(3) 指導観

妊娠期の診断とケアでは、厚労省は卒業時には少しの助言で自立して実施できることが求めている。また、①妊婦や家族の日常生活に応じた個別的なケアを考え実践する②妊婦や家族が望む、満足のいくお産に向け支援する⑤継続的な妊婦とのかかわりから、分娩・産褥期を見通したケアを実践する⑥良好なコミュニケーションから信頼関係が築けるようにするという実習目標を達成できるよう指導していく。

母体の健康状態をアセスメントし、正常からの逸脱に学生自ら気づくよう促す。また、妊娠期から分娩期・産褥期へと継続した助産ケアを考えられるよう指導する。

学生はその場の雰囲気ではアセスメントが伴わず行動傾向があるため、学生のアセスメント内容、助産診断、指導内容・方法について事前に確認し、根拠に基づいた診断ができるよう指導する。指導案を作成する際には、教科書や講義資料を用いるよう勧める。保健指導案以外のことを質問された時は指導者に確認してから返答するように事前に伝えておく必要がある。

産婦人科の問診には対象のプライバシーに関わることや羞恥心を喚起する内容のものが多く、個人情報の保護の観点からも配慮が必要である。医師や助産師は妊婦が安心して答えられる雰囲気を作り、他の人に聞こえない場所で行い、信頼を得られる態度で接することが望ましい。

2) 本実習の指導目標

- (1) 妊娠経過が正常にたどっているか判断できる。
- (2) 妊娠の生理的変化を理解できる。
- (3) 正常からの逸脱に気づき、必要な指導がわかる。
- (4) 根拠のある正しい情報を伝える必要性が理解できる。
- (5) 個別性を考慮した指導内容を考えることができる。
- (6) プライバシーへの配慮ができる。

3) 指導評価計画

- (1) 正常な妊娠経過について学生が述べるができる。
- (2) 妊娠の生理的変化を学生が述べるができる。
- (3) 正常からの逸脱に気づき、次回に必要な指導内容をあげることができる。

- (4) 根拠のある正しい情報を伝える必要性が理解できる。
- (5) 保健指導内容を考えるときに個別性を意識することができる。
- (6) プライバシーへの配慮ができる。

4) 本実習状況の場面の指導案

時間	指導（学習）内容	指導方法と留意点	学生の反応(予想)	評価の視点
13:30	1. 行動目標の確認、調整 妊娠経過の把握に必要な情報 ＜項目＞ 血圧、尿検査、子宮底長、腹囲、体重、児の推定体重、BPD、AFI、浮腫、児心音、胎位、胎向、後期採血結果、帯下の有無と状態、腹部緊満	学生の自己課題を明確にする。 発問 「今日の目標と行動計画を発表してください。」 観察項目の内容を確認する。 *不足点があった場合、振り返りの時間に指導する。 *プライバシーへの配慮について確認する。	今日の目標と行動計画を述べる。	34週の妊婦健診時の視点が述べられる。
14:00	2. 対象者への挨拶と健診の見学 健診中に観察が必要な情報 ＜項目＞ 顔色、表情、服装、口調、態度、保健指導を受けている時の反応	学生紹介。 デモンストレーション 1) レオポルド触診法、腹囲、子宮底の測定を行う 2) 保健指導を行う 入院、育児物品の準備の確認を行う 出産前教室受講の有無を確認する	挨拶をし、健診を見学する。 待合室など他の患者がいる場ではプライベートな質問をしなかった。	挨拶をし、プライバシーに配慮して健診を見学できる。
14:20 14:30	3. 情報の整理	健診が終了 発問 「本日の健診結果を情報収集し診断してみましょう。10分ほどしたら報告にきて下さい。」	10分後 「本日の結果は BP115/77mmHg 子宮底 30cm	不足があっても情報収集したことを述べられる。

			腹囲 88cm 体重 59kg 浮腫(-) お腹の張り (-) EFBW2102g BPD89mm AFI20.5cm Hb10.0g/dl Ht32% です。」	
14:33	4. アセスメントと 助産診断の報告 ・現時点の診断 ・次回の指導の視点 ・科学的根拠を入れる	承認 「短時間で必要な情報を収集できましたね。」 ＊笑顔で学生の答えをうなづきながら聞いている。 ＊正常から逸脱していることに気づいていない事は指摘しない。 発問 「今回の経過は全て正常とのことでしたが、気になる事はなかったですか？」 ＊正常からの逸脱に気づかせるように具体的に発問する。 「採血結果はどうでしたか？」 発問 「それは正常ですか？」 「正常値はいくらでしたか？」 指示 「教科書を一緒に確認しましょう。」 ＊教科書を一緒に確認する。	「本日は正常な経過だったので、次回は分娩に向けてバースプランの確認を行いたいと思います。」 返答に困っている。 「Hb10.0g/dl、Ht33%でした。」 「低いですか？」 返答に困っている。	逸脱している情報に気づき述べられる。

		*正常値を確認した上で生理的変化を把握させる。 発問 「34 週の血液の生理的変化はどのようなものですか。」 発問 「今日の五島さんの採血結果はどうですか？」 承認 「そうですね。気がつきましたね。」 発問 「貧血があるとどうなりますか？」 教科書を見ながら確認する。 承認 「そうですね。自覚症状としてそのようなものがありますね。」 発問 「今日、五島さんは自覚症状はありましたか？」 承認 「そうですね。そうしましょう。」 発問 「では、妊娠性貧血が続くと今後どのような影響がありますか？」 *妊娠期から継続した視点を持てるような発問をする。	「正常値は Hb 11g /dl、Ht 33% です。」 「母体の循環血液量は 32 から 34 週がピークとなり血液希釈が起こり水血症状態となるため相対的に貧血を起こしやすい時期です。」 「Hb10.0g/dl、Ht33%なので貧血です。」 「めまい、動悸…（他教科書を見ながら自覚症状を答える）」 「体調はいいとおっしゃっていましたが、次回自覚症状の有無を確認したいと思います。」 教科書を見ながら 「貧血があると、胎児発育不全、妊	妊娠の生理的な変化とその根拠について述べることができる。 妊娠性貧血に気づくことができる。 貧血の自覚症状を述べられる。 次回の観察点に結びつける。 妊娠性貧血が周産期に及ぼす影響を述べられる。 妊娠性貧血に対する指導の必要性を理解できる。
--	--	--	--	--

		承認 「そうですね。よく気づきましたね。」	妊高血圧症候群、微弱陣痛、弛緩出血、産褥期の回復不良、乳汁分泌不全、また乳児の貧血になる可能性があります。」 「では、次回は貧血について指導した方がいいですか？」	
14:45	5. 個別性への配慮	発問 「個別性への配慮はどうしますか？」 助言 「料理が趣味と言われていたので、鉄分の多い料理のレシピがあると喜ばれるかもしれませんね。」 ＊妊娠期の実習は初めてであり、個別性への配慮について学生が考えるのは困難なことが予測されるため助言を行う。 ＊個別的なケアについて、対象者の日常生活に応じた具体的な内容を考えられるように助言する。 助言 「五島さんにも、貧血改善の必要性がわかるように教科書から調べて指導案に盛り込んできてくださいね。」 ＊正確な情報源から科学的根拠を用いて指導案を作成できるよう助言する。	「うーん。」 悩んでいる様子 「わかりました。調べてきます。」 「わかりました。パンフレットなどで説明できるようにします。」	個別性のある指導内容がわかる

(参考)

今までの妊娠経過

妊娠週数		24w0d	26w0 d	28w0d	30w0d	32w1d	34w1d
母体の状態	子宮底 (cm)	22	24	27	27	29	30
	腹囲 (cm)	80	82	85	87	87	89
	血圧	112/62	98/60	107/68	114/70	102/68	115/77
	浮腫	－	－	－	－	－	－
	尿蛋白	－	－	－	－	－	－
	尿糖	－	－	－	－	－	－
	体重 (kg)	54.5	55.5	56.5	57.5	58	59
胎児の状態	児心音 (bpm)	140	136	130	148	128	145
	BPD (mm)	66.7	78.9	80	84	87	89
	AFI	43.8					20.5
	推定体重 (g)	670	879	1135	1433	1859	2102
	胎位・胎向	第2骨盤位	第2頭位	第2頭位	第1頭位	第2頭位	第1頭位
行った検査							RBC340万/ μ g
							WBC7000/ μ g
							Ht32%
							Hb10.0g/dℓ

2. 2019 年度 特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会 評価

特定分野（助産）における保健師助産師看護師実習指導者講習会 終了後アンケート

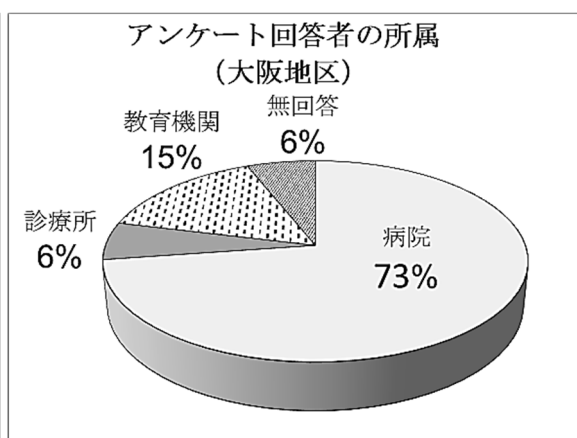
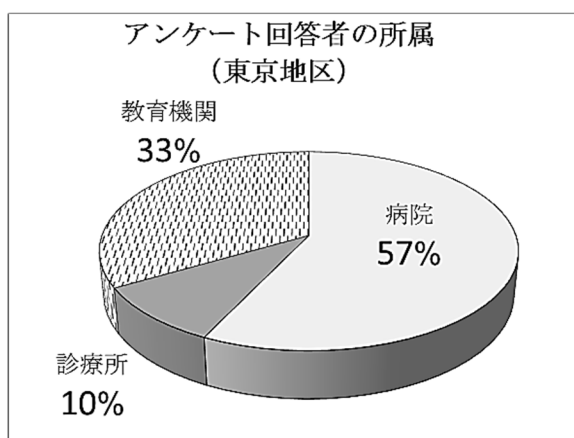
アンケートは 55 部を配布、54 部を回収した（回収率 98.2％）。

1. アンケート結果

1) 所属、経験年数、受講動機(会場別結果)

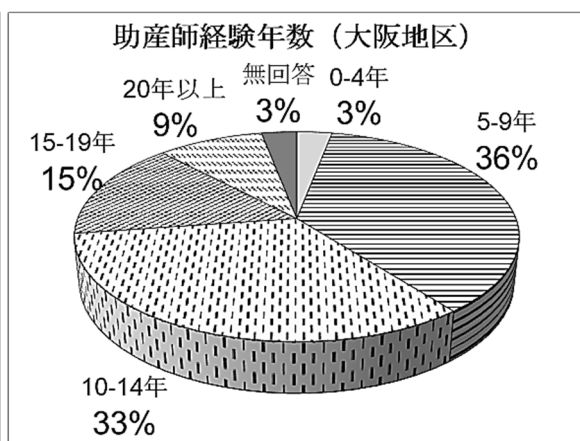
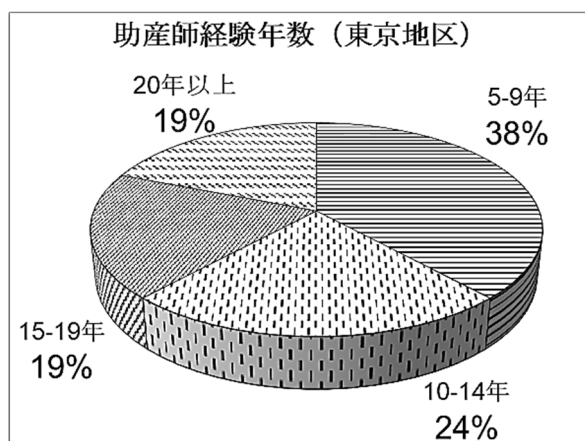
・ 所属

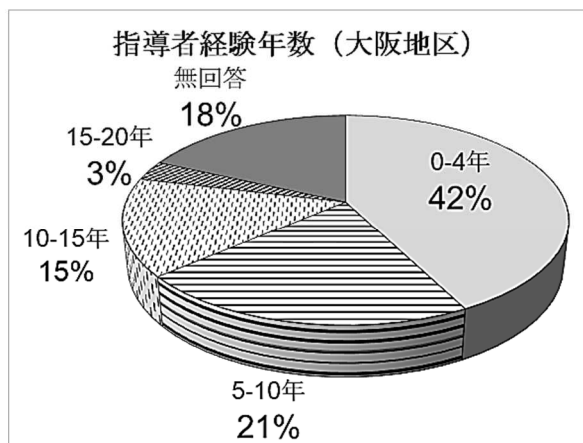
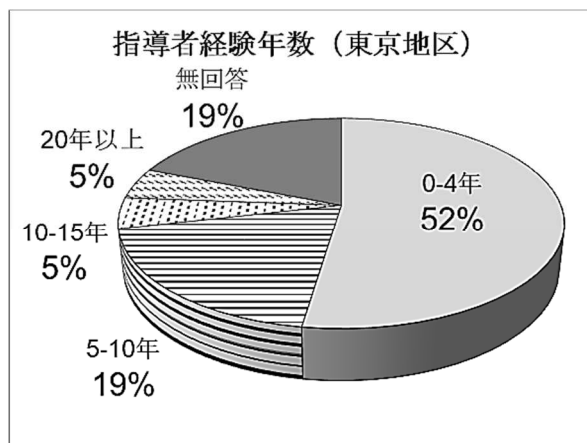
	病院	診療所	助産所	教育機関	その他	無回答	計
東京地区	12	2	0	7	0	0	21
大阪地区	24	2	0	5	0	2	33
合 計	36	4	0	12	0	2	54



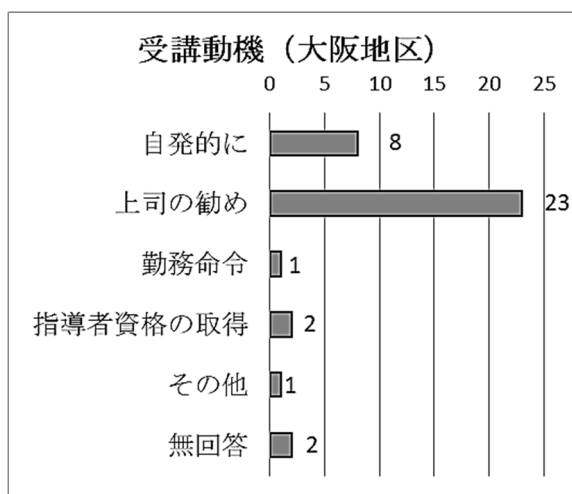
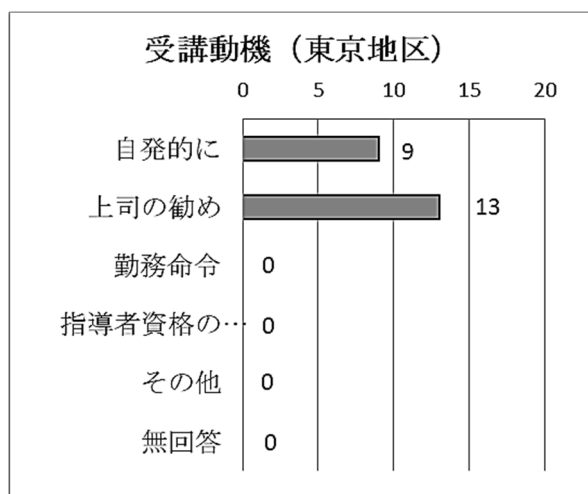
・ 経験年数

	東京地区	大阪地区
助産師平均年数	14.2	11.7
指導者平均年数	4.5	5.8





・受講動機

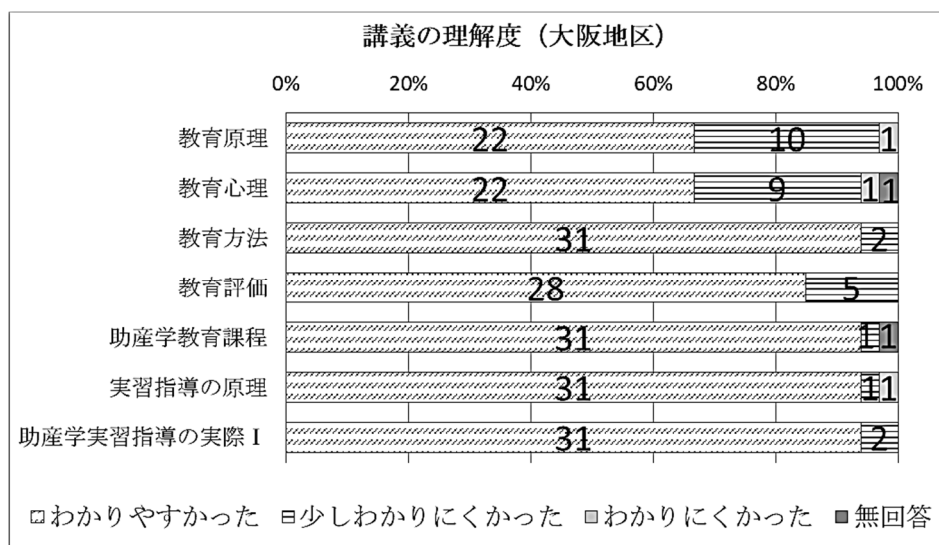
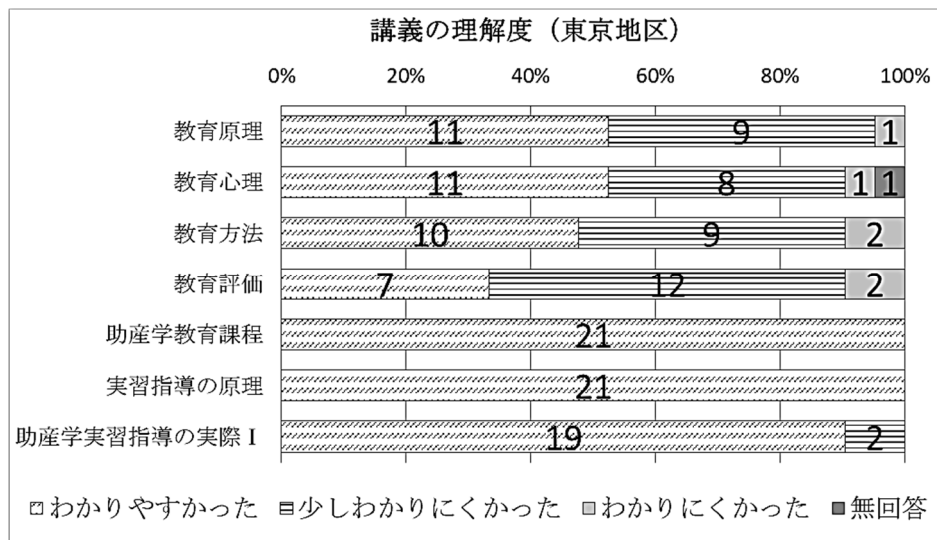


受講者の背景は、例年と大きな変化は見られなかった。

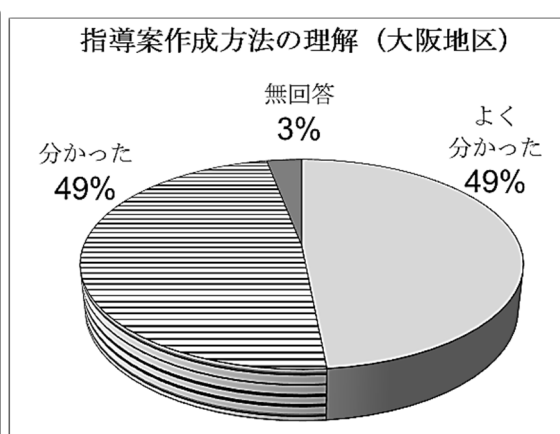
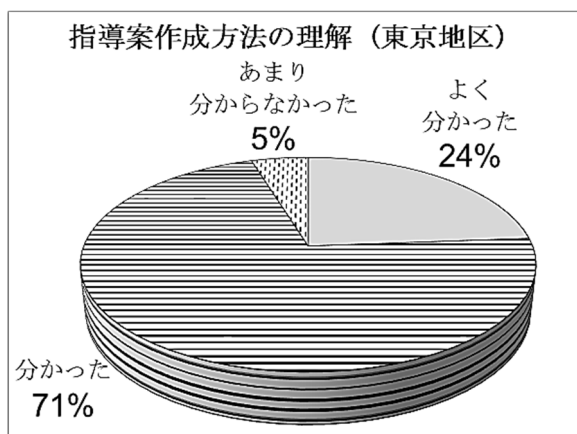
受講動機は、「自発的に」「上司の勧め」で多かった。昨年度までは自発的に受講する割合が最も多かったが、今年度は上司の勧めによるものが大半を占めた。実習施設における指導者配置にとって必要な資格であるため、上司が研修の必要性を理解し、臨地実習指導者に勧めていることは良い傾向である。

2) 講義・演習の理解度、学びの効果

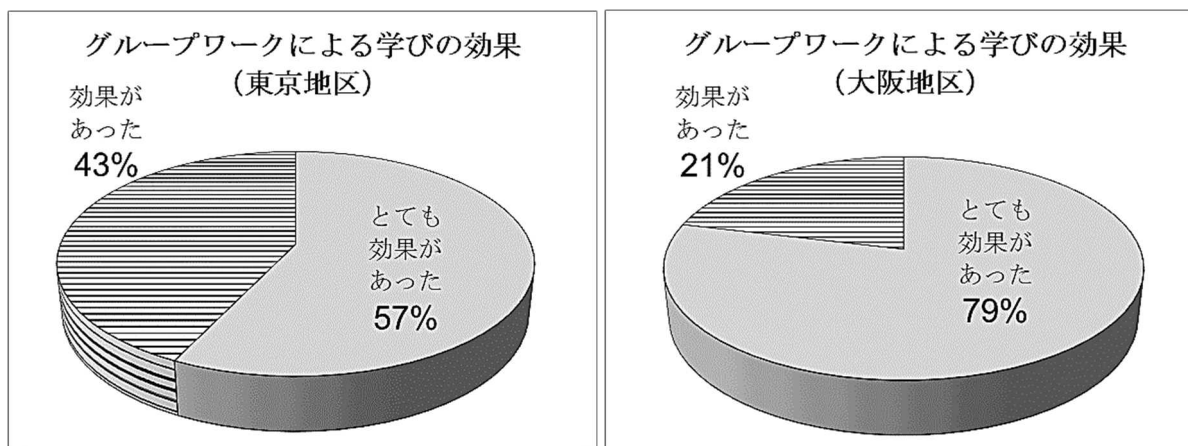
講義・演習の理解度は、教育学において「少しわかりにくかった」「わかりにくかった」が 50-60%を占める科目があるものの、実習指導の原理および助産学実習指導の実際においては、両会場とも 90%以上が「わかりやすかった」と答えていた。また、指導案作成方法の理解、グループワークによる学びの効果では、肯定的回答が 95%以上と高く、全般的には助産学実習指導についての理解度は高く、学びの効果が高かったと言える。さらに、実習指導に対する思いはほとんどの受講生で変化を自覚できていることから、実習指導者講習会の目的はほぼ達成できたのではないかと考える。



・指導案作成方法の理解



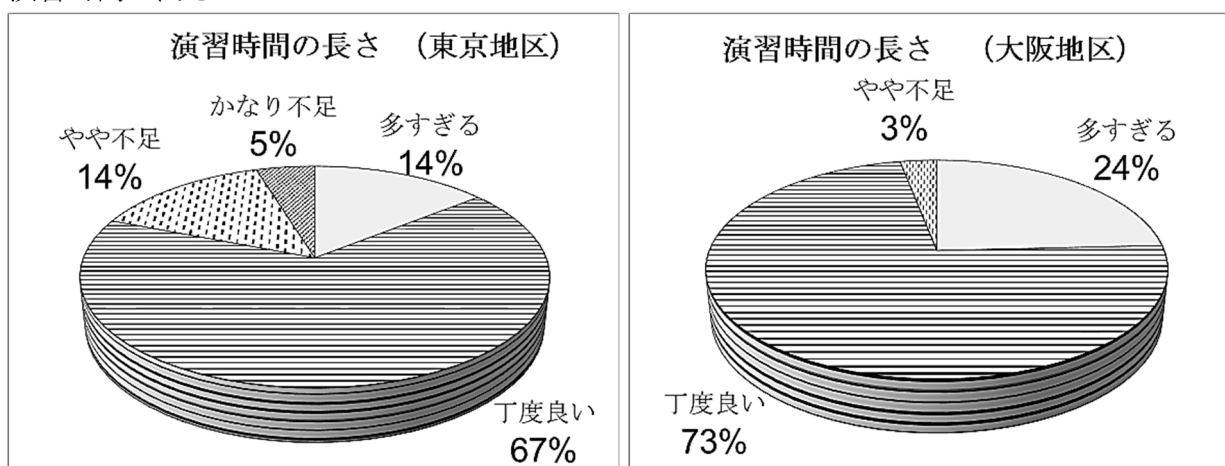
・グループワークによる学びの効果



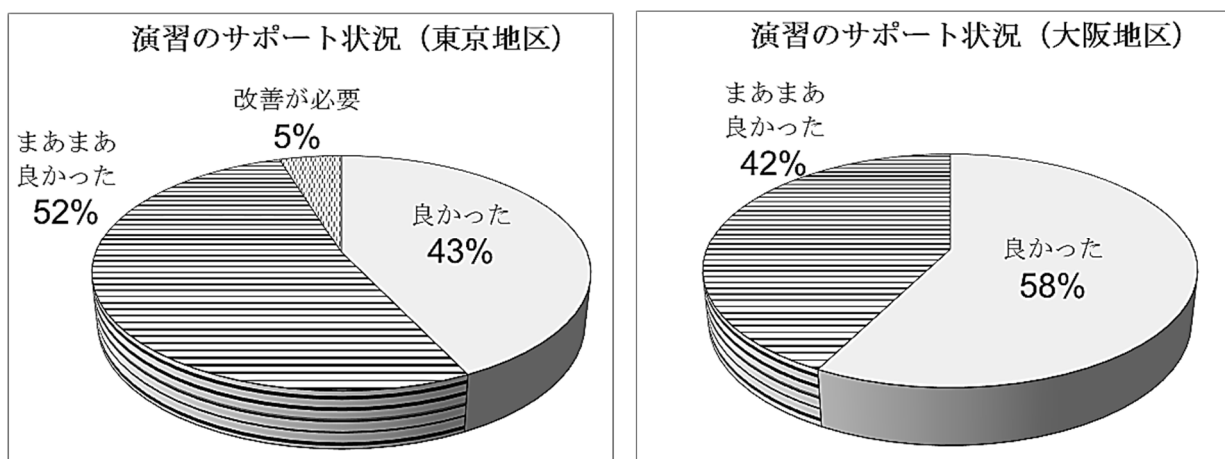
3) 演習時間の長さ、演習のサポート状況

演習時間の長さは、例年「多すぎる」「不足」と感じる受講生が一定数いるが、各グループの指導案作成に関する内容の深さや範囲によるもの大きいと考えられる。演習のサポート状況については、概ね良い評価であったが、サポートの改善が必要という受講生もいたことから、指導案作成の到達度等を考慮した支援を工夫する必要がある。

・演習時間の長さ



・演習のサポート状況



4) 学び（自由記載より）

*指導のあり方／指導方法

- ・ 学生指導の時に、「この学生に何を学ばせたいか」を具体的に考えて関わることの重要性に気付いた。
- ・ 学生さんの到達目標に沿って、思いを引き出せるような発問を行うことが学びにつながると学んだ。
- ・ 学生の気づきを言語化できるように導くことの大切さを知りました。
- ・ 「学生の立場に立って」「個別的な」に注意して指導を行えるようにしていきたい。
- ・ 学生さんに求めるものが多すぎたのかなと感じ、その時々で多く求めずに到達できる目標と一緒に考えてあげることが大切だと思った。
- ・ 今回、学生指導を行う中で悩んだことに根拠を持つことができ、自信を持って学生のロールモデルになるよう、学生の寄り添いながら実習指導を行っていきこうという前向きな気持ちになれた。
- ・ 何気なくやっている指導のプロセスを整理できた。
- ・ 学生への発問や行動で示す事によって学生自身が自ら気付けるよう援助できるようにしたい。
- ・ 現在の学生の置かれている状況や求められる助産師というのを意識して指導できると良いと思った。

*学生へのかかわり方

- ・ 学生の特性を考えることが、学生に向き合う上での第一歩であることを学んだ。
- ・ 学生との関わりの中で、待ちの姿勢や発問など学生を第一に考えて動くことの大切さを実感した。
- ・ 学生の現状を知って問いかけ方や接し方を見直そうと思った。自分も緊張していたなと思い出した。
- ・ コーチングの使い分け、承認をしてやる気を上げるような関わり、学生に優しくしようと思えた。

*指導観・学習者観・教材観

- ・ 学生が効果的な実習をするために、1つ1つの場面で3観を元に目的を持って指導する必要がある。
- ・ 学生に何を学んでほしいか、自分が何を伝えたいか、わからなくなる時は指導の3観に戻って、指導案を作るのが大事だと思った。
- ・ 学生観を把握できているかが学生の学びにも大きく関わると感じました。
- ・ 1例目から学生に高いものを求めすぎており、学生観が考えられていなかった。研修を受けて3観を明確にすることで、学生に合わせて指導ができると思った。

*実習の受け入れ体制

- ・ 自分だけではなく、指導者間で学びを共有したい、そして、統一した指導へとつなげたい。
- ・ 学校は打ち合わせに来た際、理念・方針を確認するとともに、学生の個別性を取り入れられるように、もう少し学生の情報や授業の進行状況をもっと確認しようと思った。
- ・ 実習要綱の理解、そして学生の性格などの理解が指導をスムーズに行えるので準備をしっかりとる。
- ・ 学生の学びを有意義なものにできるように、知識も環境も準備を整えていきたい。

*臨床と教育との連携

- ・ 三観を意識して教員の方と会話をしていくことで助産実習を今までより効果的にしていきたい。
- ・ 学生を理解するために私たちも教員やスタッフ間で情報共有することが大切であることがわかった。
- ・ 学生や学校側の立場で実習の支援を考えることがもっと必要だと感じた。
- ・ 実習側、学校側で考えず、学生の成長に合わせ考える必要があることがわかった。

*グループワークの学び

- ・ より一層学生への接し方、モチベーションを上げるための方策について講義でそしてグループで意見交換を持つことで、様々な意見を聴かせて頂き、モチベーションが上がった。

IV 全国助産師教育協議会 e-learning 研修

1 2019 年度 e-learning 研修の配信開始

1) e-learning 研修での教育の成果

2019 年度作成の e-learning の授業科目は 1. 助産論（助産ケアの理念と助産師倫理綱領、女性の人権と健康、助産と生命倫理）1 コマ、2. 助産論演習（学校経営と管理）1 コマ、3. 助産師教育方法論（助産師教育における教授・学習計画の考え方）1 コマ、4. 助産師教育方法論（助産師教育における教授・学習活動の成立①、②、③）3 コマ、5. 助産師教育課程（教育課程の基本原則、教育課程と法律）2 コマの 5 科目、8 コンテンツである。これらの教材はパックとして教育機関や個人に購入されて地元において学ぶ機会を提供した。

e-learning の教材で自己学習後ファーストステージ研修に参加した受講生から、3 つの授業科目の教育の成果が述べられた。e-learning をベースにして授業に入り、予習・復習を兼ねて学習しやすく、教育内容が具体的で現状場面に即して示され、学ぶ視点が明確化して統合することができた。e-learning を含め講師がこれまで研究・探求された内容が情熱的に語られ、先人の活動を重視し、且つそこにある原理・原則を尊重する姿勢から助産師魂を注入された。また実践教育を重視し、学生の学びを深める方法を演習で示され、教育の工夫の有り様を学習した。e-learning 後の学びであり、資料や講義も理解しやすく実践的であり、講義・演習・実習の指導案の要素について見直す機会になった。

これらの教育成果から、e-learning 研修をさらに深める具体的な教育方法を勘案していく必要がある。

2) e-learning 研修セットの内容

科 目	内 容	時間数
助産論 講師:安達久美子	助産ケアの理念と助産師倫理綱領、女性の人権と健康、生命倫理	1.5h
助産論演習 講師:郷原寛子	学校経営と管理	1.5h
助産師教育方法論 講師:村上明美	助産師教育における教授・学習計画作成の考え方	1.5h
助産師教育方法論 講師:高橋弘子	助産師教育における教授・学習活動の成立①	1.5h
助産師教育方法論 講師:高橋弘子	助産師教育における教授・学習活動の成立②	1.5h
助産師教育方法論 講師:高橋弘子	助産師教育における教授・学習活動の成立③	1.5h
助産師教育課程 講師:佐々木幾美	教育課程の基本原則	1.5h
助産師教育課程 講師:佐々木幾美	教育課程と法律	1.5h

2 全国助産師教育協議会 e-learning研修セット受講者の評価

e-learning 教材に関するアンケート 集計結果

調査期間：2020年5月30日～6月18日

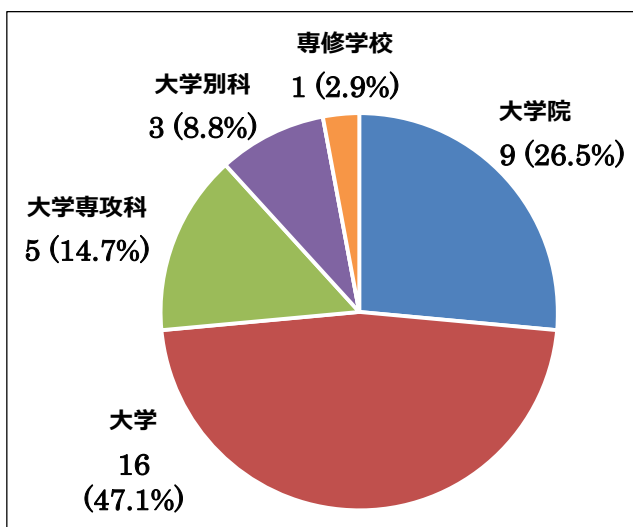
調査方法：質問紙調査／WEB調査

対象者：2019年度にe-learning教材を購入された個人および会員校代表者、会員校教員

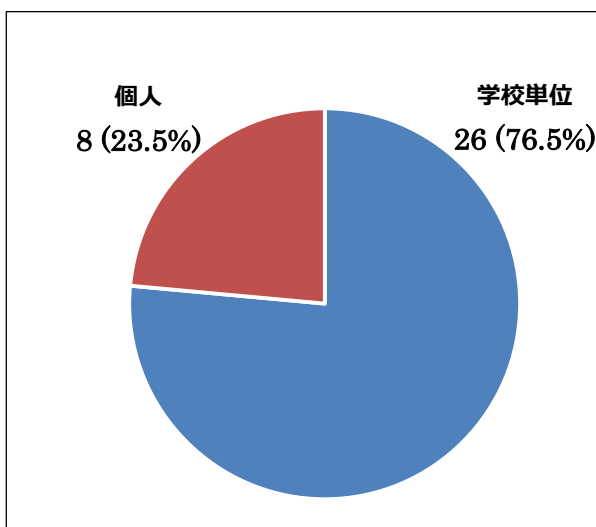
回答者数：34名

【集計結果】

・所属する助産師教育課程の種類（n=34）

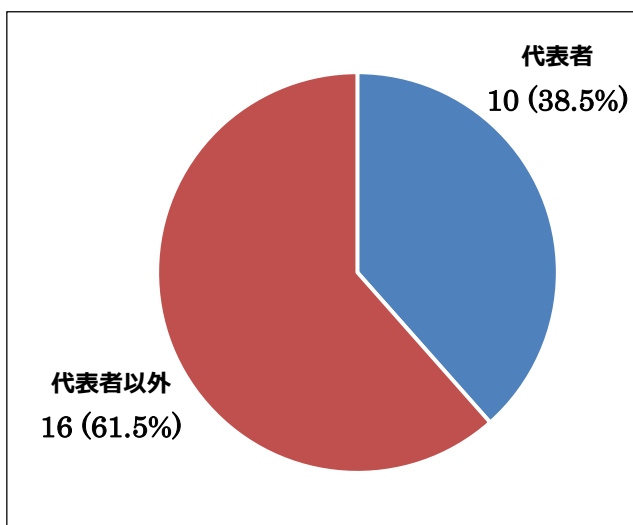


・e-learning教材の購入者（n=34）



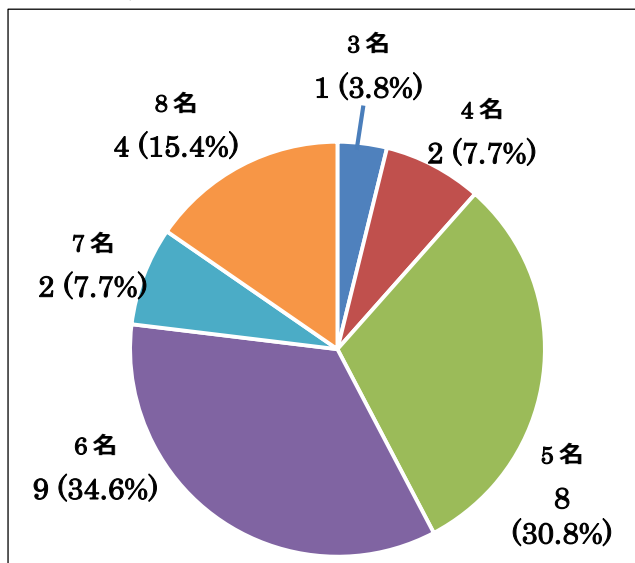
・助産師教育課程の代表者／代表者以外か？（n=26）

※学校単位で購入された方のみ回答



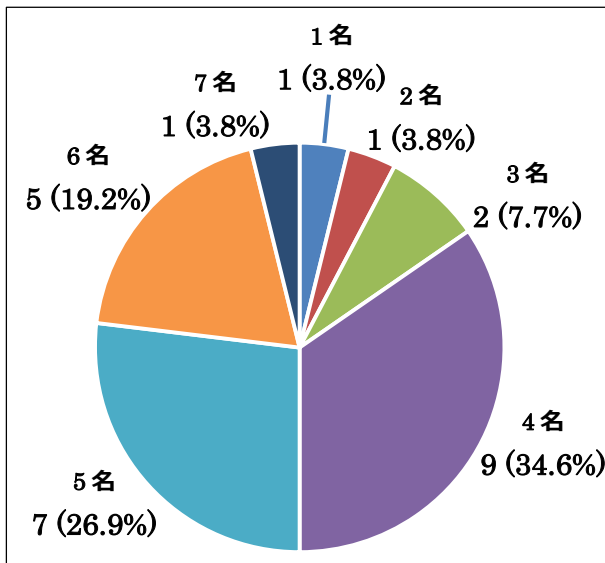
・所属の助産師教育課程における助産師教員数
(n=26)

※学校単位で購入された方のみ回答

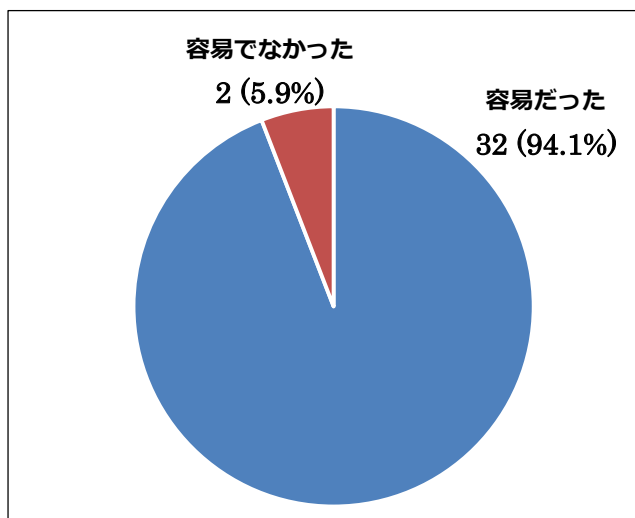


・所属の助産師教育課程における
e-learning を受講した助産師教員数
(n=26)

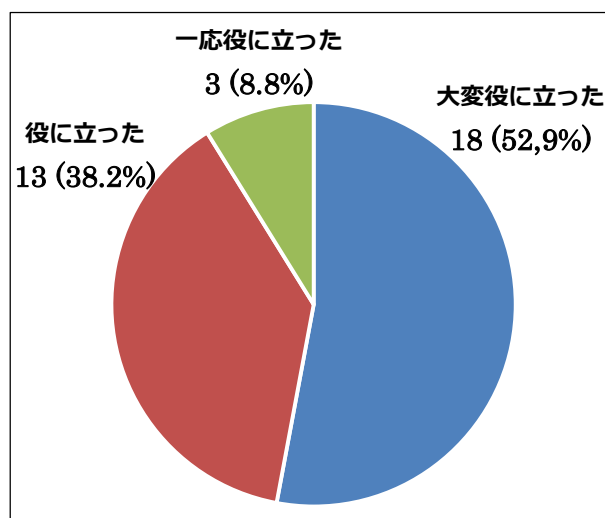
※学校単位で購入された方のみ回答



・e-learning 研修サイトへのアクセスは容易か？
(n=34)



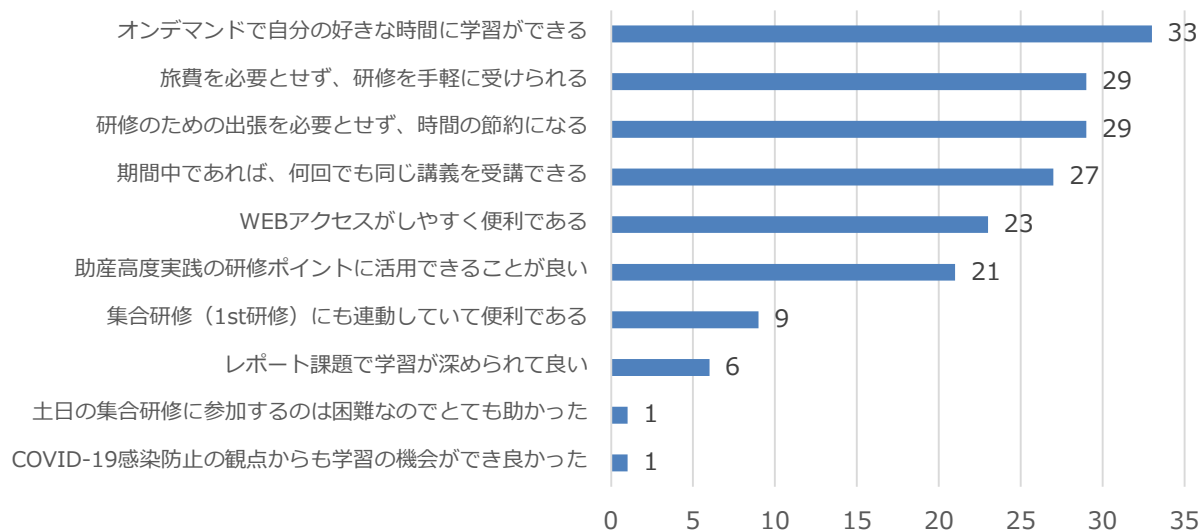
・e-learning 教材は役に立ったか？
(n=34)



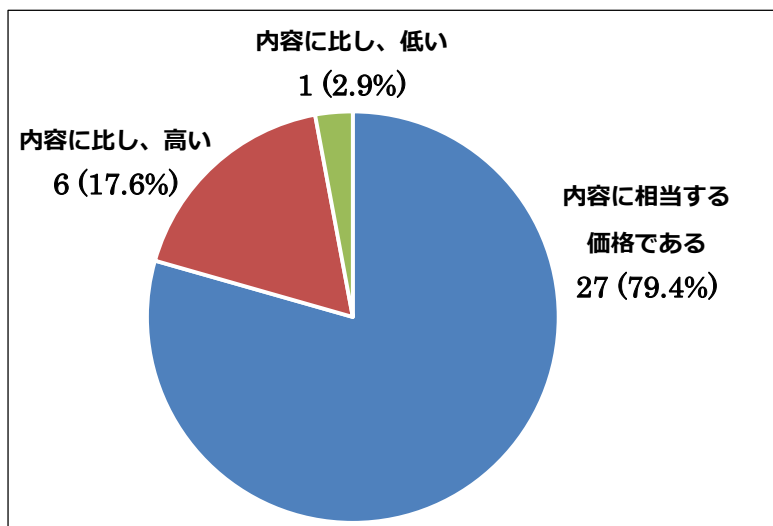
・e-learning 教材の有用性についての前問の回答理由

- カリキュラム作成の背景を復習できた。
- 現在の自分の考え方について確認ができた。
- 自身の担当講義にも活かせる内容で大変役立った。
- 助産師教育の中心となるものについて、凝縮してまとめられていた。過去からのプロセスなど、知識不足の点についても気づくことができた。
- 助産師教育の歴史について、初めてしっかり学ぶ機会となった。
- 改めて、本学の教育課程やカリキュラムを見直す機会となった。また、このカリキュラムでどのように教育すべきか考える機会となった。
- 教員として必要な、授業案の考え方や法律について改めて学習する機会となった。

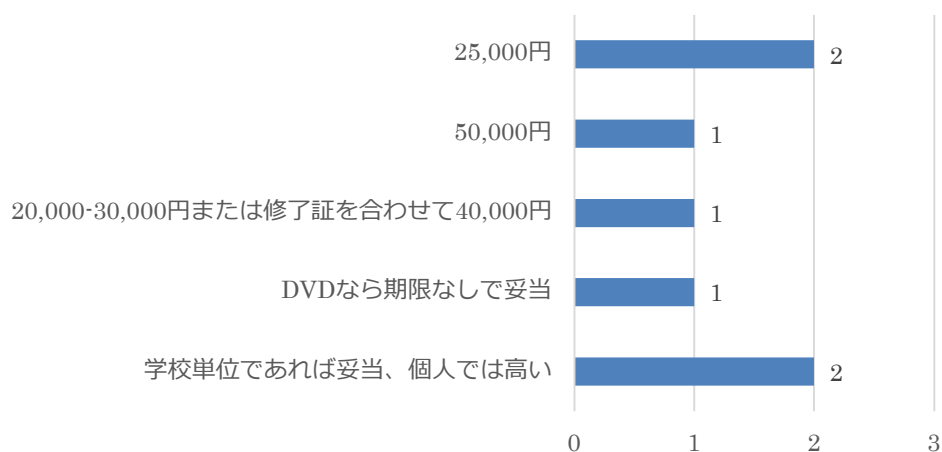
・ e-learning 教材を使用した感想（複数回答）



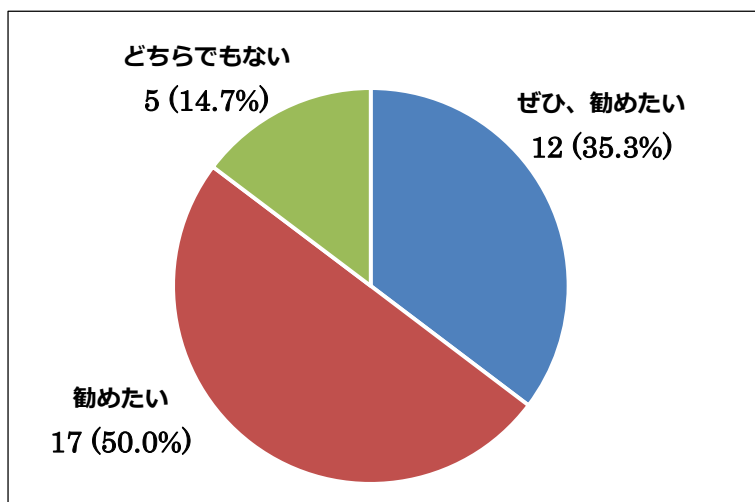
・ e-learning 教材の販売価格（40,000 円）は妥当か？（n=34）



・ 前問で「内容に比し、高い」「内容に比し、低い」と回答された方が考える適切な価格（n=7）



・他の人にこの e-learning 教材を勧めたいか？ (n=34)



・購入後の使用期間はその年度内の1年間であり、年度をまたいでの使用は再度購入が必要であることについてのご意見

- 結果的に期限が延長されることになったが、1年といっても実質1年より短かったように思います。レポートまで記入するとなるとそれぞれの施設がアクセス可能になった日から1年等、融通してもらえると助かります。
- 使用期間は伸ばした方が良くと思います。個人への権利ならば、1年ごとでよいと思うが、その場合価格が高いと思います。
- 内容の更新等があると思われるので、1年間が妥当と考えます。
- 公費の使用等を考えると予算執行に関連して年度単位で期限を設定することは、良いと思います。
- 再度、視聴して学習を深める際に再購入するのは費用や手間がかかる。2年くらいは再視聴できるようにしていただきたい。
- 今回、視聴期間を延長していただいたため、大変助かりました。有り難うございます。購入した場合に限り、期間延長（追加費用は要るが低価格）とともがあると良いかもしれません。
- 年度をまたいで継続的な使用であれば、割引（3割程度）があるといいと思います。
- 再度学習したいと思いますが、再学習時の金額設定をしていただければ利用しやすいです（例えば半額）。
- 2回目以降の購入は、セット販売のみでなく、コンテンツを選択できる方法も検討して欲しい。
- 更新までの間は視聴可能としていただけると、適宜振り返りとして使用したい。
- 今回は配信開始やアカウント付与までに期間を要していたため、早めに配信していただけると良いと思います。
- 内容が更新されていないのであれば、再度購入の必要性は低いと思われます。

・全国助産師教育協議会で e-learning 教材の開発を推進していくための方策についてのご意見

<e-learning のシステムについて>

- 質問を受け付けていただくようなフォームがあればよい。
- 一人が視聴すると他の人が同時視聴できないのは不自由だと思います。
- e-learning 研修の修了証は、研修費用に含まれてたほうが良いです。学校単位での購入ができたことは大変助かりますが、修了証等の発行などを考えると個人単位での研修アカウントがあった方が良く感じました。個人で研修記録、修了証の発行がそのままできるシステムの方が、今後 e-learning 研修を広めていくためにも良いかと思いました。
- コンテンツ代金が高い上に、修了証の手数料が必要だった。検討してほしい。
- 全助協に加盟していない一般の方（助産師・看護師）で教育に興味を持たれている方も受講できるとよいかなと思いました。

<今後の e-learning 教材の開発について>

- 助産師が必ずしも講師でなくても良いのではないかと思います。助産分野の状況は踏まえつつもその分野に通じた方を講師として選んで頂ければと思います。
- 実際の講義や演習を見せてもらえると学生の反応もわかりやすく、学びが大きいように思います。
- より、実践的で実際の教育に活かせるような内容だと助かります。また、最近のトピックスなどを含めた講座があると是非受講したいです。
- 課題提出は大変でしたが、教員養成の時に戻ったようで、より学習が深められました。2名の先生のための課題でしたが、他の先生のものもレポート提出があっても良いと思います。そうすると e-learning を希望しない人も出てくるかと思いますが、必要なことのように思います。
- センターで実施する集合研修の負担を少なくするため、可能な限り、各科目の基本的考え方の部分は、この方法を導入できるようにする方が良いでしょう。
- 助産課程の教員は、研修に出る（出張）時間を確保することが困難であるが、新任教員や管理者向けの研修は必要と思うので、ファーストやセカンドの e-learning を希望します。
- 受講者側として感じたことは、80 分の動画を集中して見ることは非常に難しいという事です。もう少し一つ一つのテーマをコンパクトにさせていただき、それぞれに対して 10 分程度でも良いので最後に確認テストを設けると、ポイントを押さえて理解することができるのではないかと感じました。レポート課題を出されたセクションとそれ以外では集中力が違うなと感じました。
- 教育方法に関する教材（例えば効果的な演習の進め方など）があると参考にできる。CLOCMiPⅢの研修に相当するような内容も入れていただきたい。
- 倫理の研修、研究に関する研修なども、できる部分をこのようにできるとよいと思う。
- 助産師教育に関する内容をオンデマンド配信（個人）して欲しい。地方にいと助産師教育に関する研修の機会は少なく、また複数の教員が研修に参加する時期は、講義・実習の関係で限定されるので、出張せずに手軽に自分の時間で受講できる e-learning は有効である。今回はアドバンス助産師の更新に利用できる研修であったので、学内教員にも声をかけることができた。

・全国助産師教育協議会主催の研修に期待する事、やってほしい活動等についてのご意見

- 学生がオンラインで学べる教材の開発
- ファーストステージ研修を受講したいですが、時間的にも距離的にもなかなか、受講できません。そのため、一部の公開講座のみ受講しております。今後、e-learning 等で受講できれば、有難いです。
- 今後、ぜひファーストステージ研修の他の科目も、演習や実習以外はオンデマンド形式で視聴できればありがたいです。リアルタイムが重要な内容であれば、オンライン講義というだけでも参加のハードルが下がって有難いです。「助産」の「教育」に関する研修は他ではなかなかないので、本当に実践的で素晴らしい内容でした。土日丸々使うのではない形式の研修を強く期待しています。
- e-learning での研修を増やしてもらいたいです。また、総会や研修会もオンラインで行えるようになったら、出席しやすいと思います。
- なかなか普段出向いて研修を受けることができない先生方のお話を聞ける機会にさせていただけるとありがたいです。
- WHP 申請に使用できる研究を増やしてもらいたい
- 知識の伝達だけでなく、事例検討をして実践での関わりのヒントをいただければと思います。
- 助産師教育の質の向上を図る事を目的とした本協議会の研修センターであることから、今の新型コロナウイルス感染拡大による影響が教育の現場にも切実に及ぼされており、演習・実習の代替となる教材や方法案の提示と発信、全国の助産師教育機関と連携するシステムなど速やかに構築していただきたい。今年度の通常総会、臨時総会などの情報もホームページをみてもわからず、決められないにしても、何らかの現状報告（例えば、検討中でも、あるいは、いつ頃までには情報提示の予定でも）が欲しいと思っています。
- COVID-19 の影響で、各教育機関、講義・演習・実習も試行錯誤が続いていることと存じます。おかれている地域の現状に合わせ、できる限り学生の思考力や実践力を伸ばす方法を考えていくことが大切だと存じますが、一教育機関の限界も感じております。今後のことを考えると、教育用コンテンツが充実すると大変助かります。ミニマムリクワイアメンツに準じた教育用のコンテンツ（場面設定の動画など）などがあると良いかもしれません。既に今年はほぼ助産の講義を終え、これからの実習に向けた技術試験等の準備をしております。そのため、今は、各施設の現状をとりまとめて国に届けていただけることを一番に望みます。COVID-19 の影響で実習が例年通りの期間できるかどうか不安の中でやっております。

V センター事業における CLoCMIP® レベルⅢ認証申請のための研修一覧

研修プログラム	更新要件	時間数	研修スタイル	開催日
特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者	教育	41.0 h	集合	東京・大阪 7/19～21・ 8/23～25
ファーストステージ研修				
ファーストステージ研修/全科目	マタニティケア	10.0 h	集合	6/21～22
	臨地実習	15.0 h		7/12～14
	教育・研究・コミュニケーション・倫理・管理	100.0 h		7/26～28 8/9～11 2020/1/24～26
	ウィメンズヘルスケア	10.0 h		2020/3/7～9 (延期)
ファーストステージ研修(科目履修)/助産論	教育	3.0 h	集合	6/21～22
	管理	3.0 h		
	研究	3.0 h		
	倫理	1.5 h		
ファーストステージ研修(科目履修)/助産論演習	管理	16.5 h	集合	7/12～14
	倫理	6.0 h		
ファーストステージ研修(科目履修)/助産師教育方法論	教育	39.0 h	集合	7/26～28 8/9～11
ファーストステージ研修(科目履修)/助産師教育方法演習	教育	12.0 h	集合	10/4～6
	コミュニケーション	10.5 h		
ファーストステージ研修(科目履修)/助産師教育課程	教育	22.5 h	集合	2020/1/24～26
ファーストステージ研修(科目履修)/助産師教育評価	教育	13.5 h	集合	2020/3/7～9 (延期)
	研究	3.0 h		
	コミュニケーション	6.0 h		
ファーストステージ研修(公開講座)/看護行政の最近の動向ー行政が助産師に期待する役割と機能：厚生労働省	管理	1.5 h	集合	7/12
ファーストステージ研修(公開講座)/看護行政の最近の動向ー行政が助産師に期待する役割と機能：文部科学省	管理	1.5 h	集合	7/26
ファーストステージ研修(公開講座)/助産師教育における教授・学習活動の成立(学習倫理を含む)助産師教育における教材と教材研究	教育	9.0 h	e-learning + 集合	7/26
ファーストステージ研修(公開講座)/OSCEの理論と実際	教育	7.5 h	集合	7/27～28
ファーストステージ研修(公開講座)/職能団体における教育に関する役割と連携：日本助産師会	教育	1.5 h	集合	2020/1/24
ファーストステージ研修(公開講座)/医学教育の現状と課題	教育	1.5 h	集合	2020/1/25
ファーストステージ研修(公開講座)/教育評価の考え方	教育	3.0 h	集合	2020/3/7 (延期)

ファーストステージ研修(公開講座)/ 助産師の専門性を高める教育・評価のあり方	教育	4.5 h	集合	2020/3/7 (延期)
ファーストステージ研修(公開講座)/ 職能団体における教育に関する役割と連携： 日本看護協会	教育	1.5 h	集合	2020/3/8 (延期)
セカンドステージ研修				
セカンドステージ研修/ 助産師教育課程概論	教育	5.0 h	集合	6/1・ 9/28～29
	研究	5.0 h		
	コミュニケーション	5.0 h		
	倫理	5.0 h		
	管理	5.0 h		
	25.0 h を任意の上 記分野に任意時間 配当可	25.0 h		
セカンドステージ研修/ 助産師教育運営組織論	教育	5.0 h	集合	11/4・ 2020/3/14～ 15 (延期)
	研究	5.0 h		
	コミュニケーション	5.0 h		
	倫理	5.0 h		
	管理	5.0 h		
	25.0 h を任意の上 記分野に任意時間 配当可	25.0 h		
セカンドステージ研修(公開講座)/ 助産師教育運営組織論 助産師を取り巻く医 療・助産・看護の動向と今後の教育の方向性	管理	1.5 h	集合	11/4
セカンドステージ研修(公開講座)/ 助産師教育運営組織論 医療施設における管 理の現状と助産師教育機関に必要な組織改革	管理	1.5 h	集合	11/4
e-learning				
e-learning 研修/ 助産師教育における教授・学習計画作成の考 え方	教育または WHC	1.5 h	e-learning	
e-learning 研修/ 助産師教育における教授・学習活動の成立①	教育または WHC	1.5 h	e-learning	
e-learning 研修/ 助産師教育における教授・学習活動の成立②	教育または WHC	1.5 h	e-learning	
e-learning 研修/ 助産師教育における教授・学習活動の成立③	教育または WHC	1.5 h	e-learning	
e-learning 研修/ 教育課程の基本原則	教育または WHC	1.5 h	e-learning	
e-learning 研修/ 教育課程と法律	教育または WMC	1.5 h	e-learning	
e-learning 研修/ 学校経営と管理	助産管理または WHC	1.5 h	e-learning	
e-learning 研修/ 助産ケアの理念と助産師倫理綱領、女性の人 権と健康、助産と生命倫理	倫理または WHC	1.5 h	e-learning	

2019 年度 助産師教育研修研究センター運営委員会

センター長	平澤 美恵子
委 員	浅見 恵梨子
	恵美須 文枝
	岡山 久代 (2019 年 10 月から)
	倉本 孝子
	白石 三恵
	鈴木 千秋 (2019 年 11 月まで)
	中山 香映
	萩原 直美 (2020 年 3 月から)
	藤井 宏子
	村上 明美 (2019 年 6 月まで)
	山崎 圭子 (五十音順)
担当理事	渡邊 典子
事務職員	内田 奈巳